

記者発表資料
平成21年7月24日
環境創造局環境管理課長
伊藤秀明 TEL 671-2474
環境創造局規制指導課担当課長
江口正隆 TEL 671-2803

(神奈川県及び川崎市と同日発表)

横浜市政記者、横浜ラジオ・テレビ記者 各位

平成20年度大気汚染・水質汚濁・交通騒音等の状況について

横浜市では、大気汚染防止法、水質汚濁防止法及び騒音規制法等に基づいて、大気汚染、水質汚濁、地盤沈下及び交通騒音等の調査を行っています。このたび、これらの平成20年度の測定結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

【大気環境のトピック】

浮遊粒子状物質が全測定局において、2年連続で環境基準に適合！
二酸化窒素が全測定局において、4年連続で環境基準に適合！

【水環境のトピック】

鶴見川上流域（亀の子橋）のBODが2年連続で環境基準に適合！
健康項目が全測定地点において、4年連続で環境基準に適合！

1 大気汚染の状況（別紙1、資料1）

- ・二酸化窒素と浮遊粒子状物質は、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）20局と自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）8局の全局で環境基準に適合しました。二酸化窒素は4年連続で、浮遊粒子状物質は2年連続の全局適合です。
- ・光化学オキシダントは、測定を行った一般局19局の全局で環境基準に不適合でした。
- ・二酸化硫黄は、測定を行った一般局18局の全局で環境基準に適合しました。昭和55年度から29年連続の全局適合です。
- ・有害大気汚染物質の環境基準又は指針値が設定されている11物質（ベンゼン等）は、測定を行った一般局3局と自排局2局の全局で環境基準又は指針値に適合しました。

2 水質汚濁及び地盤沈下の状況（別紙 2、資料 2）

(1) 公共用水域水質

- ・ B O D（河川の有機性汚濁の指標）は、河川 2 1 地点のうち、2 0 地点で環境基準に適合しました。
- ・ C O D（海域の有機性汚濁の指標）は、海域 7 地点のうち、5 地点で環境基準に適合しました。
- ・ 全窒素と全燐（海域における赤潮発生等の原因物質）は、ともに海域 7 地点のうち、3 地点で環境基準に適合しました。

(2) 地下水質

- ・ 概況調査（メッシュ調査、定点調査）では、環境基準値が定められている 2 5 項目のうち、鉛と硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素以外は、全て環境基準に適合しました。
- ・ 鉛は、測定を行った 4 2 地点のうち、1 地点の井戸で環境基準に不適合でした。
- ・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、測定を行った 4 2 地点のうち、1 地点の井戸で環境基準に不適合でした。

(3) 地盤精密水準測量

- ・ 地盤沈下が前年と比較できる成果点 3 4 3 地点では、1 cm 以上地盤沈下した地点はありませんでした。

3 交通騒音等の状況（別紙 3、資料 3）

(1) 道路交通騒音

- ・ 道路交通騒音は、測定を行った 3 2 地点のうち、3 地点で昼夜ともに環境基準に適合しました。
- ・ 面的評価（道路端から 5 0 m までの範囲にある住居等の受ける騒音レベルを実測値を基に予測式を用いて算出し、環境基準に適合する戸数及びその割合を求めるもの。）における道路騒音は、調査した 4 路線延べ 1 1 8 . 9 km については、約 7 3 % で昼夜ともに環境基準に適合しました。

(2) 新幹線鉄道騒音・振動

- ・ 新幹線の鉄道騒音は、測定を行った 2 4 地点のうち、1 6 地点で環境基準に適合しました。
- ・ 新幹線の鉄道振動は、測定を行った 2 4 地点の全地点で指針値に適合しました。

(3) 航空機騒音

- ・ 本市は環境基準の地域指定がされていませんが、測定を行った 3 地点の全地点で W E C P N L 値が 7 0 を下回っていました。

平成 20 年度大気汚染の状況について

横浜市では大気環境の状況を把握するため、大気汚染防止法に基づいて、**窒素酸化物等の常時監視**(自動測定機による連続測定)とベンゼン等の**有害大気汚染物質の測定**(毎月の定点測定)を継続的に行っています。

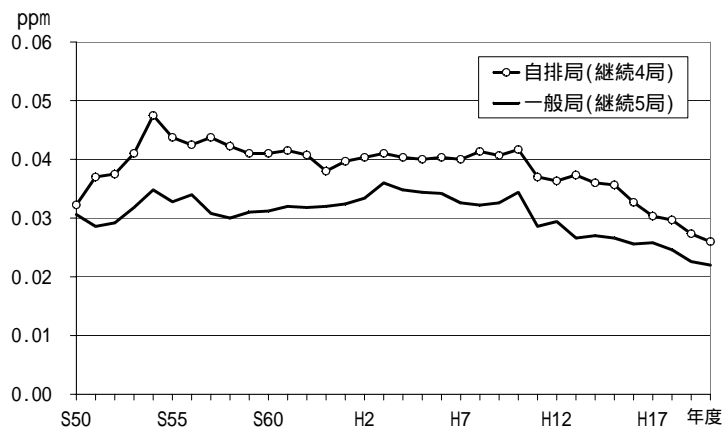
また、ダイオキシン類対策特別措置法に基づいて、**ダイオキシン類の測定**(年4回の定点測定)も実施しています。

1 窒素酸化物等の常時監視測定結果の概要

(1) 二酸化窒素

- ・一般局 20 局と自排局 8 局の全局で環境基準(1時間の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。)に適合しました。全局での適合は、平成17年度から4年連続です。
- ・年平均値の全局平均は、一般局は0.021ppm、自排局は0.027ppmで、平成19年度に比べ一般局と自排局ともに0.001ppm低下しています。昭和50年代後半から概ね横ばい状況で推移していましたが、平成11年度からは緩やかに改善傾向を示しています。
- ・一般局の年平均値の最高は、「磯子区総合庁舎測定局」及び「鶴見区生麦小学校測定局」の0.024ppm、最低は、「金沢区長浜測定局」、「戸塚区汲沢小学校測定局」及び「栄区上郷小学校測定局」の0.017ppmでした。
- ・自排局の年平均値の最高は、「西区浅間下交差点測定局」の0.035ppm、最低は、「資源循環都筑工場前測定局」の0.022ppmでした。

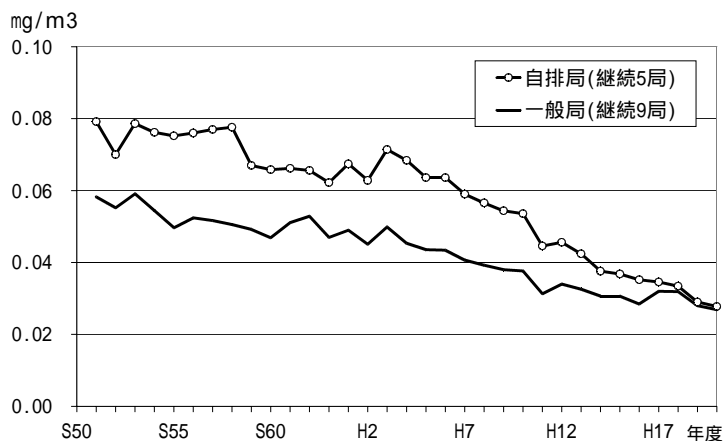
【二酸化窒素年平均値の経年変化】



(2) 浮遊粒子状物質

- ・一般局 20 局と自排局 8 局の全局で環境基準（1 時間値の 1 日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であること。）に適合しました。全局の適合は、平成 19 年度から 2 年連続です。
- ・年平均値の全局平均は、一般局は $0.027\text{mg}/\text{m}^3$ 、自排局は $0.028\text{mg}/\text{m}^3$ で、平成 19 年度に比べ一般局と自排局ともに $0.001\text{mg}/\text{m}^3$ 低下しています。長期的にも改善傾向にあります。
- ・一般局の年平均値の最高は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」、「磯子区総合庁舎測定局」、「西区平沼小学校測定局」、「中区本牧測定局」及び「瀬谷区南瀬谷小学校測定局」の $0.028\text{mg}/\text{m}^3$ 、最低は、「都筑区総合庁舎測定局」の $0.024\text{mg}/\text{m}^3$ でした。
- ・自排局の年平均値の最高は、「鶴見区下末吉小学校測定局」の $0.030\text{mg}/\text{m}^3$ 、最低は、「港南中学校測定局」の $0.026\text{mg}/\text{m}^3$ でした。

【浮遊粒子状物質年平均値の経年変化】



(3) 光化学オキシダント

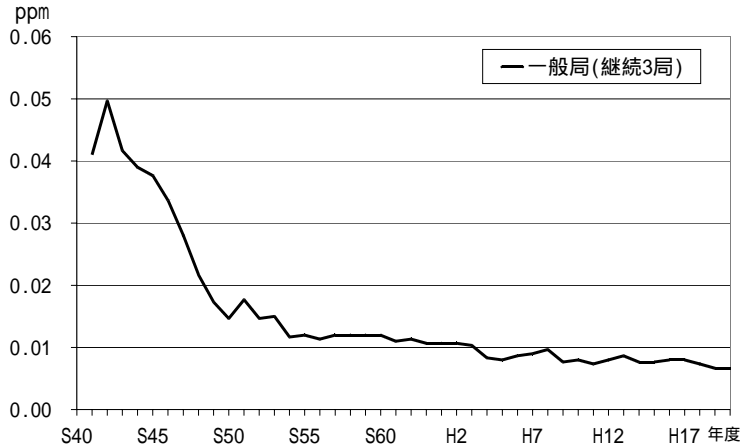
- ・測定を行った一般局 19 局の全局で環境基準（1 時間値が 0.06ppm 以下であること。）に不適合でした。平成 2 年度から 19 年連続で全局不適合が続いています。
- ・昼間の年平均値の最高は、「戸塚区汲沢小学校測定局」及び「栄区上郷小学校測定局」の 0.030ppm 、最低は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」の 0.023ppm で、19 局の平均は 0.027ppm でした。
- ・光化学スモッグ注意報の発令回数は 6 回で、届出被害者は 2 人でした。

(4) 二酸化硫黄

- ・測定を行った一般局 18 局の全局で環境基準（1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。）に適合しました。全局での適合は、昭和 55 年度からの 29 年連続です。
- ・年平均値の全局平均は 0.005ppm で、平成 19 年度と同値でした。昭和 42 年度をピークに昭和 50 年度以降は急激に低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。

- ・年平均値の最高は、「鶴見区潮田交流プラザ測定局」、「神奈川区総合庁舎測定局」、「磯子区総合庁舎測定局」及び「中区本牧測定局」の0.007ppm、最低は、「戸塚区汲沢小学校測定局」、「瀬谷区南瀬谷小学校測定局」及び「緑区三保小学校測定局」の0.004ppmでした。

【二酸化硫黄年平均値の経年変化】



(5) 一酸化炭素

- ・測定を行った自排局3局の全局で環境基準（1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。）に適合しました。全局での適合は、昭和56年度からの28年連続です。
- ・年平均値の全局平均は、0.7ppmで、平成19年度に比べ0.1ppm低下しています。昭和52年度以降低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。
- ・年平均値の最高は、「西区浅間下交差点測定局」の0.8ppm、最低は、「青葉台測定局」の0.6ppmでした。

最近10年間の環境基準適合局数の推移

年度	二酸化窒素		浮遊粒子状物質		光化学 オキシダント	二酸化硫黄	一酸化炭素
	一般局	自排局	一般局	自排局	一般局	一般局	自排局
11年度	15 / 20	2 / 8	17 / 20	4 / 8	0 / 19	20 / 20	6 / 6
12年度	18 / 20	2 / 8	5 / 20	3 / 8	0 / 19	20 / 20	6 / 6
13年度	17 / 20	2 / 8	19 / 20	4 / 8	0 / 19	20 / 20	6 / 6
14年度	19 / 20	3 / 8	16 / 20	3 / 8	0 / 19	20 / 20	6 / 6
15年度	20 / 20	7 / 8	13 / 20	3 / 8	0 / 19	20 / 20	5 / 5
16年度	20 / 20	7 / 8	19 / 20	8 / 8	0 / 19	20 / 20	5 / 5
17年度	20 / 20	8 / 8	20 / 20	8 / 8	0 / 19	20 / 20	5 / 5
18年度	20 / 20	8 / 8	17 / 20	6 / 8	0 / 19	18 / 18	3 / 3
19年度	20 / 20	8 / 8	20 / 20	8 / 8	0 / 19	18 / 18	3 / 3
20年度	20 / 20	8 / 8	20 / 20	8 / 8	0 / 19	18 / 18	3 / 3

(注) 表中の数字は適合局数 / 測定局数で、太字は全局適合を表す。

2 有害大気汚染物質の測定結果の概要

- ・有害大気汚染物質のうちの優先取組物質等の22物質を一般局3局（一般環境地域1局、固定発生源周辺地域2局）と自排局2局（沿道地域2局）で測定しました。（有害大気汚染物質の調査地点は、「一般環境地域」、「固定発生源周辺地域」及び「沿道地域」に分類されています。）
- ・環境基準又は指針値が設定されている11物質（ベンゼン等）は、測定を行った一般局3局と自排局2局の全局で環境基準又は指針値に適合しました。

3 ダイオキシン類の測定結果の概要

- ・測定を行った一般局9局の全局で環境基準（ $0.6\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ 以下）に適合しました。
- ・各測定地点の年平均値は、 $0.026\text{pg-TEQ}/\text{m}^3 \sim 0.038\text{pg-TEQ}/\text{m}^3$ の範囲でした。

平成 2 0 年度水質汚濁及び地盤沈下の状況について

横浜市では河川や海域、地下水の水環境の状況を把握するため、水質汚濁防止法に基づいて、神奈川県知事が定める「公共用水域及び地下水の水質測定計画」により、**公共用水域水質測定**と**地下水質測定**等を継続的に行っています。

また、地盤沈下の状況を把握するため、主に軟弱地盤である沖積低地を対象地域として、**地盤精密水準測量**（年 1 回の測量）を毎年行っています。

1 公共用水域水質測定結果の概要

(1) 健康項目

- ・健康項目（「人の健康を保護する上で維持されることが望ましい」基準として環境基準が定められたカドミウム、全シアン及び鉛等の 2 6 項目）について、河川 2 1 地点及び海域 7 地点の計 2 8 地点で測定しました。（国土交通省及び大和市が分担した河川 1 0 地点を含む。）
- ・健康項目は、河川 2 1 地点と海域 7 地点の全測定地点で環境基準に適合しました。
- ・環境基準の適合状況は測定項目により変動はありますが、長期的には改善傾向にあります。

(2) 生活環境項目

- ・生活環境項目（「生活環境を保全する上で維持されることが望ましい」基準として環境基準が定められた BOD、COD 及び全窒素等の 1 0 項目）について、健康項目と同じ河川 2 1 地点及び海域 7 地点の計 2 8 地点で測定しました。
- ・BOD（河川の有機性汚濁の指標）は、河川 2 1 地点のうち、2 0 地点で環境基準（B 類型：3 mg/L 以下、D 類型：8 mg/L 以下、E 類型：10mg/L 以下）に適合しました。年平均値については、ここ 1 0 年間は改善傾向にあります。

【鶴見川の BOD 経年変化】



- ・COD（海域の有機性汚濁の指標）は、海域7地点のうち、5地点で環境基準（B類型：3mg/L以下、C類型：8mg/L以下）に適合しました。年平均値については、ここ10年間は横ばい傾向にあります。
- ・全窒素（海域における赤潮発生等の原因物質）は、海域7地点のうち、3地点で環境基準（A類型：0.6mg/L以下、B類型：1mg/L以下）に適合しました。
- ・全燐（海域における赤潮発生等の原因物質）は、海域7地点のうち、3地点で環境基準（A類型：0.05mg/L以下、B類型：0.09mg/L以下）に適合しました。

最近10年間の環境基準適合地点数の推移

年 度	河川	海域		
	BOD	COD	全窒素	全燐
11年度	18 / 21	4 / 7	3 / 7	3 / 7
12年度	19 / 21	5 / 7	3 / 7	3 / 7
13年度	17 / 21	6 / 7	3 / 7	3 / 7
14年度	19 / 21	4 / 7	3 / 7	3 / 7
15年度	19 / 21	3 / 7	3 / 7	3 / 7
16年度	19 / 21	6 / 7	3 / 7	4 / 7
17年度	18 / 21	3 / 7	3 / 7	4 / 7
18年度	19 / 21	3 / 7	3 / 7	3 / 7
19年度	20 / 21	5 / 7	3 / 7	4 / 7
20年度	20 / 21	5 / 7	3 / 7	3 / 7

（注）表中の数字は適合地点 / 測定地点を表す。

2 地下水質測定結果の概要

(1) 概況調査

ア メッシュ調査

- ・メッシュ調査（市域を1kmメッシュに分割し、メッシュ内に存在する井戸の地下水を採取する。4年間で市内全体の調査を行う。）として市内の103地点の井戸で、環境基準項目25項目（アルキル水銀を除くカドミウム、全シアン及びトリクロロエチレン等）、要監視項目1項目（クロロホルム）及び一般項目5項目（水温及びpH等）を測定しました。
- ・鉛は、1地点の井戸で環境基準（0.01mg/L以下）に不適合でした。
- ・硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、1地点の井戸で環境基準（10mg/L以下）に不適合でした。
- ・鉛と硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素以外の物質は、測定を行っている全調査地点で環境基準又は指針値に適合しました。

イ 定点調査

- ・ 定点調査（市が所有する井戸について、長期的な観点から水質の経年変化を調査する。）として市内の 8 地点の井戸で環境基準項目 25 項目（アルキル水銀を除くカドミウム及びトリクロロエチレン等）、要監視項目 1 項目（クロロホルム）及び一般項目 5 項目（水温及び pH 等）を測定しました。
- ・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素等の 3 項目を検出しましたが、いずれも環境基準には適合しました。

(2) 定期モニタリング調査

- ・ 定期モニタリング調査（汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。）として市内の 17 地点の井戸で汚染物質を測定しました。
- ・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、6 地点の井戸で環境基準（10mg/L 以下）に不適合でした。

(3) 汚染井戸周辺地区調査

- ・ 汚染井戸周辺地区調査（メッシュ調査で新たに発見された汚染関連物質について、その汚染範囲を確認するために調査する。）として市内の 3 地域 9 地点の井戸で汚染物質を測定しました。
- ・ 1,1,2-トリクロロエタンは、2 地点の井戸で環境基準（0.006mg/L 以下）に不適合でした。
- ・ トリクロロエチレンは、1 地点の井戸で環境基準（0.03mg/L 以下）に不適合でした。
- ・ 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は、1 地点の井戸で環境基準（10mg/L 以下）に不適合でした。

(4) その他調査（地下水質測定計画以外の調査）

ア 汚染井戸追跡調査

- ・ 汚染井戸追跡調査（過去に行った市の独自調査や事業者からの報告により汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。）として市内の 61 地点の井戸で汚染物質を測定しました。
- ・ 1,1-ジクロロエチレンは、1 地点の井戸で環境基準（0.02mg/L 以下）に不適合でした。
- ・ シス-1,2-ジクロロエチレンは、7 地点の井戸で環境基準（0.04mg/L 以下）に不適合でした。
- ・ トリクロロエチレンは、13 地点の井戸で環境基準（0.03mg/L 以下）に不適合でした。
- ・ テトラクロロエチレンは、21 地点の井戸で環境基準（0.01mg/L 以下）に不適合でした。

イ 汚染源究明調査

- ・トリクロロエチレン等の汚染が判明している地域において、汚染源及び汚染原因者を特定するための調査を実施し、汚染原因者に対して、『横浜市生活環境の保全等に関する条例』に基づき、浄化指導を行いました。

3 地盤精密水準測量結果の概要

- ・主に軟弱地盤である沖積低地（171.90 km²）を調査対象として、356地点の延長372 kmで精密水準測量を実施しました。356地点のうち、地盤沈下が前年と比較できる成果点は、343地点です。
- ・成果点の343地点では、1 cm以上地盤沈下した地点はありませんでした。

平成 20 年度交通騒音等の状況について

横浜市では道路交通騒音状況を把握するため、騒音規制法に基づいて、**道路交通騒音調査及び道路交通騒音面的評価調査**を継続的に実施しています。

また、新幹線の鉄道騒音・振動の状況や厚木海軍飛行場に飛来する航空機による騒音の状況を把握するため、**新幹線鉄道騒音・振動調査**と**航空機騒音調査**も継続的に行っています。

1 道路交通騒音調査及び道路交通騒音面的評価調査結果の概要

- ・ 道路交通騒音は、測定を行った 32 地点のうち 3 地点で昼夜間ともに環境基準（昼間：70 デシベル以下、夜間：65 デシベル以下）に適合しました。
- ・ 面的評価（道路端から 50 m までの範囲にある住居等の受ける騒音レベルを実測値を基に予測式を用いて算出し、環境基準に適合する戸数及びその割合を求めるもの。）における道路騒音は、調査した 4 路線延べ 118.9 km については、73% で昼夜間ともに環境基準（昼間：70 デシベル以下、夜間：65 デシベル以下）に適合しました。

2 新幹線鉄道騒音・振動調査結果の概要

- ・ 新幹線の鉄道騒音は、測定を行った 24 地点のうち、16 地点で環境基準（**類型**：70 デシベル以下、**類型**：75 デシベル以下）に適合しました。騒音レベルは、ここ数年はほぼ横ばいですが、長期的には改善傾向にあります。
- ・ 新幹線の鉄道振動は、測定を行った 24 地点の全地点で指針値（70 デシベル）に適合しました。振動レベルは、ここ数年はほぼ横ばいですが、長期的には改善傾向にあります。

3 航空機騒音調査結果の概要

- ・ 本市は環境基準の地域指定がされていませんが、測定を行った 3 地点の全地点で W E C P N L 値が 70 を下回っていました。騒音レベルは、長期的には横ばいとなっています。

資料 1

平成 20 年度大気汚染の状況

1	大気汚染測定内容	1
2	窒素酸化物等の常時監視測定結果	3
3	有害大気汚染物質の常時監視測定結果	17
4	ダイオキシン類の常時監視測定結果	18
5	大気汚染に関する環境基準等	19

種 別	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	二酸化硫黄	一酸化炭素
一般環境大気測定局	○(20局)	○(20局)	○(19局)	○(18局)	-
自動車排出ガス測定局	○(8局)	○(8局)	-	-	○(3局)

○印で測定

横浜市環境創造局環境管理課

1 大気汚染測定内容

表 1 大気汚染常時監視測定局及び測定項目

種別	地点番号	測定局名	測定項目						
			二酸化窒素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	二酸化硫黄	一酸化炭素	有害大気汚染物質	ダイオキシン類 ³
一般環境大気測定局 1	1	鶴見区潮田交流プラザ					-		-
	2	神奈川区総合庁舎					-	-	B
	3	港北区総合庁舎					-	-	A
	4	中区加曽台			-	-	-	-	-
	5	磯子区総合庁舎					-	-	B
	6	保土ヶ谷区桜丘高校					-	-	B
	7	西区平沼小学校					-	-	A
	8	金沢区長浜					-	-	B
	9	鶴見区生麦小学校				-	-	-	A
	10	中区本牧					-		A
	11	戸塚区汲沢小学校					-	-	A
	12	港南区野庭中学校					-	-	B
	13	旭区鶴ヶ峯小学校					-	-	A
	14	瀬谷区南瀬谷小学校					-	-	A
	15	南区横浜商業高校					-	-	B
	16	栄区上郷小学校					-	-	A
	17	緑区三保小学校					-		B
	18	青葉区総合庁舎					-	-	A
	19	都筑区総合庁舎					-	-	B
	20	泉区総合庁舎					-	-	B
自動車排出ガス測定局 2	21	鶴見区下末吉小学校			-	-	-	-	-
	22	西区浅間下交差点			-	-		-	-
	23	港南中学校			-	-	-	-	-
	24	戸塚区矢沢交差点			-	-	-		-
	25	旭区都岡小学校			-	-		-	-
	26	青葉台			-	-		-	-
	27	資源循環都筑工場前			-	-	-	-	-
	28	磯子区滝頭			-	-	-		-

1：以下「一般局」という。

2：以下「自排局」という。

3：平成19年度からは市内18区を2グループ（AグループとBグループ）に分けて測定している。平成20年度はBグループで測定した。

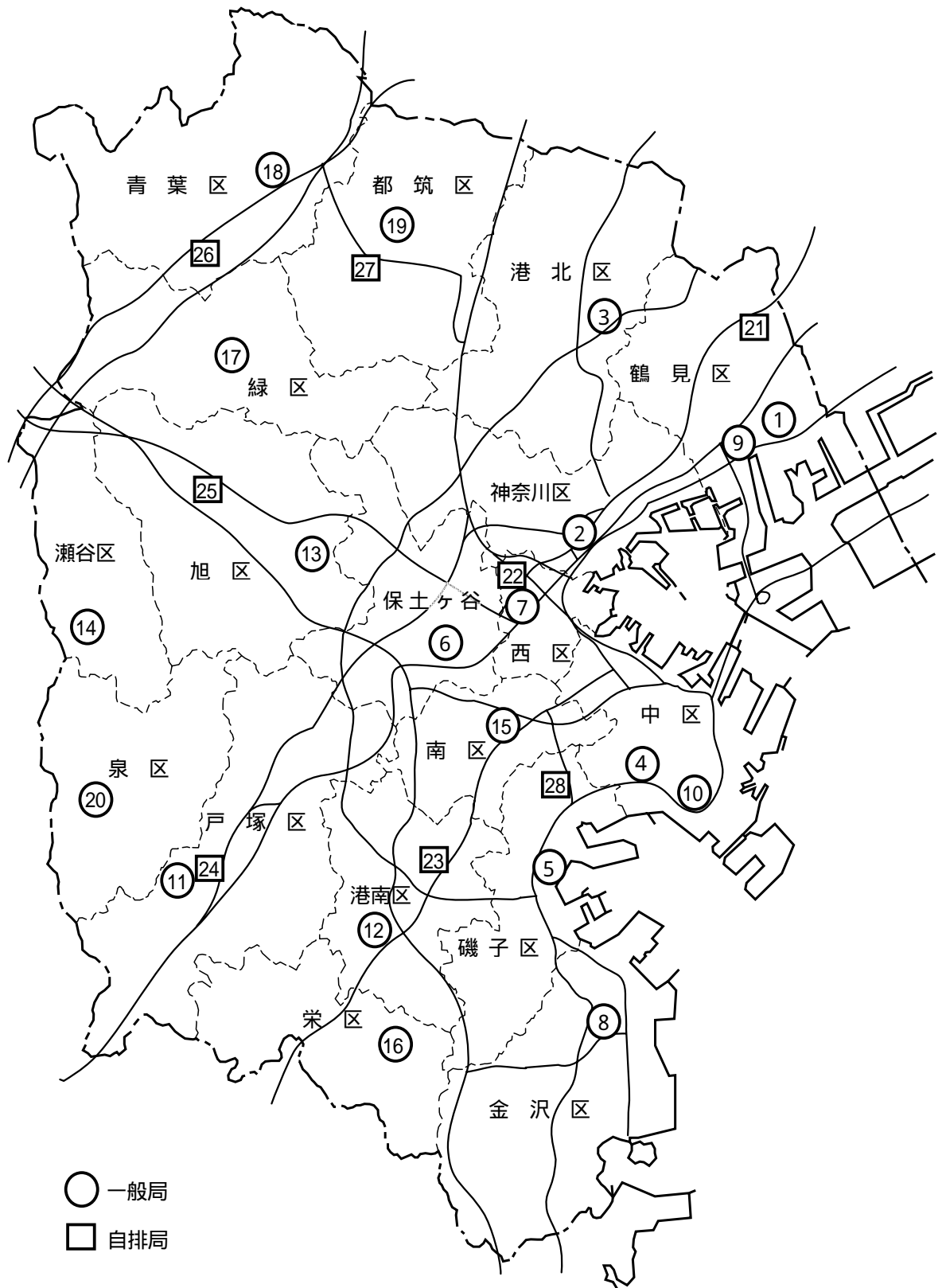


図1 大気汚染常時監視測定局の配置

2 窒素酸化物等の常時監視測定結果

表 2 - 1 平成 20 年度 二酸化窒素年間測定結果（一般局）

測 定 局	年平均値	日平均値が 0.06ppm を 超えた日数とその割合		日平均値の 年間 98% 値	98% 値評価に よる日平均値 が 0.06ppm を 超えた日数	98% 値評価 による環境 基準の適否
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	(適 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.023	0	0.0	0.040	0	
神奈川区総合庁舎	0.023	0	0.0	0.039	0	
港北区総合庁舎	0.023	0	0.0	0.040	0	
中区加曽台	0.023	0	0.0	0.041	0	
磯子区総合庁舎	0.024	0	0.0	0.042	0	
保土ヶ谷区桜丘高校	0.020	0	0.0	0.038	0	
西区平沼小学校	0.023	0	0.0	0.043	0	
金沢区長浜	0.017	0	0.0	0.035	0	
鶴見区生麦小学校	0.024	0	0.0	0.040	0	
中区本牧	0.022	0	0.0	0.040	0	
戸塚区汲沢小学校	0.017	0	0.0	0.036	0	
港南区野庭中学校	0.018	0	0.0	0.037	0	
旭区鶴ヶ峯小学校	0.019	0	0.0	0.035	0	
瀬谷区南瀬谷小学校	0.019	0	0.0	0.037	0	
南区横浜商業高校	0.023	0	0.0	0.042	0	
栄区上郷小学校	0.017	0	0.0	0.038	0	
緑区三保小学校	0.018	0	0.0	0.033	0	
青葉区総合庁舎	0.021	0	0.0	0.035	0	
都筑区総合庁舎	0.021	0	0.0	0.038	0	
泉区総合庁舎	0.019	0	0.0	0.037	0	
平 均	0.021	-	-	0.038	-	-

表 2 - 2 二酸化窒素年平均値の経年変化（一般局）

(ppm)

年度 測定局	平成 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
鶴見区潮田交流プラザ	0.033	0.036	0.036	0.032	0.030	0.029	0.029	0.027	0.025	0.023
神奈川区総合庁舎	0.036	0.037	0.030	0.031	0.031	0.029	0.029	0.027	0.024	0.023
港北区総合庁舎	0.033	0.033	0.034	0.032	0.029	0.027	0.028	0.026	0.024	0.023
中区加曽台	0.032	0.033	0.034	0.032	0.031	0.027	0.027	0.026	0.024	0.023
磯子区総合庁舎	0.035	0.034	0.029	0.029	0.029	0.027	0.028	0.027	0.025	0.024
保土ヶ谷区桜丘高校	0.030	0.031	0.032	0.026	0.026	0.024	0.025	0.024	0.022	0.020
西区平沼小学校	0.033	0.033	0.034	0.028	0.028	0.027	0.028	0.027	0.024	0.023
金沢区長浜	0.022	0.022	0.021	0.021	0.020	0.020	0.020	0.019	0.018	0.017
鶴見区生麦小学校	0.027	0.028	0.029	0.028	0.028	0.027	0.028	0.026	0.024	0.024
中区本牧	0.023	0.026	0.024	0.026	0.025	0.025	0.024	0.024	0.022	0.022
戸塚区汲沢小学校	0.022	0.021	0.022	0.023	0.023	0.021	0.022	0.021	0.019	0.017
港南区野庭中学校	0.022	0.022	0.023	0.023	0.022	0.021	0.022	0.021	0.018	0.018
旭区鶴ヶ峯小学校	0.023	0.023	0.023	0.025	0.025	0.022	0.023	0.022	0.020	0.019
瀬谷区南瀬谷小学校	0.024	0.023	0.023	0.025	0.024	0.023	0.025	0.022	0.021	0.019
南区横浜商業高校	0.028	0.028	0.027	0.027	0.027	0.025	0.026	0.025	0.023	0.023
栄区上郷小学校	0.025	0.025	0.025	0.025	0.023	0.020	0.020	0.019	0.018	0.017
緑区三保小学校	0.024	0.026	0.027	0.025	0.024	0.022	0.021	0.020	0.019	0.018
青葉区総合庁舎	0.030	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.026	0.025	0.022	0.021
都筑区総合庁舎	0.029	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.026	0.024	0.021	0.021
泉区総合庁舎	0.027	0.028	0.029	0.025	0.023	0.022	0.023	0.022	0.020	0.019
平均	0.028	0.029	0.028	0.027	0.026	0.025	0.025	0.024	0.022	0.021

表 2 - 3 平成 2 0 年度 二酸化窒素年間測定結果（自排局）

測 定 局	年平均値	日平均値が 0.06ppm を 超えた日数とその割合		日平均値の 年間 98% 値	98% 値評価に よる日平均値 が 0.06ppm を 超えた日数	98% 値評価 による環境 基準の適否
	(ppm)	(日)	(%)	(%)	(日)	(適 否×)
鶴見区下末吉小学校	0.029	0	0.0	0.047	0	
西区浅間下交差点	0.035	0	0.0	0.051	0	
港南中学校	0.024	0	0.0	0.042	0	
戸塚区矢沢交差点	0.026	0	0.0	0.042	0	
旭区都岡小学校	0.025	0	0.0	0.044	0	
青葉台	0.027	0	0.0	0.044	0	
資源循環都筑工場前	0.022	0	0.0	0.040	0	
磯子区滝頭	0.030	0	0.0	0.048	0	
平 均	0.027	-	-	0.045	0	-

表 2 - 4 二酸化窒素年平均値の経年変化（自排局）

(ppm)

測 定 局	年 度	平成	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	鶴見区下末吉小学校		0.040	0.041	0.043	0.040	0.033	0.031	0.032	0.032	0.028	0.029
西区浅間下交差点		0.050	0.047	0.050	0.048	0.041	0.039	0.040	0.040	0.036	0.035	
港南中学校		0.038	0.037	0.037	0.035	0.034	0.033	0.031	0.027	0.026	0.024	
戸塚区矢沢交差点		0.031	0.030	0.031	0.031	0.031	0.031	0.028	0.029	0.027	0.026	
旭区都岡小学校		0.040	0.039	0.040	0.038	0.037	0.030	0.030	0.029	0.026	0.025	
青葉台		0.040	0.040	0.041	0.039	0.039	0.037	0.033	0.031	0.029	0.027	
資源循環都筑工場前		0.032	0.033	0.033	0.030	0.028	0.027	0.025	0.025	0.022	0.022	
磯子区滝頭		0.043	0.044	0.045	0.044	0.037	0.034	0.035	0.033	0.031	0.030	
平 均		0.039	0.039	0.040	0.038	0.035	0.033	0.032	0.031	0.028	0.027	

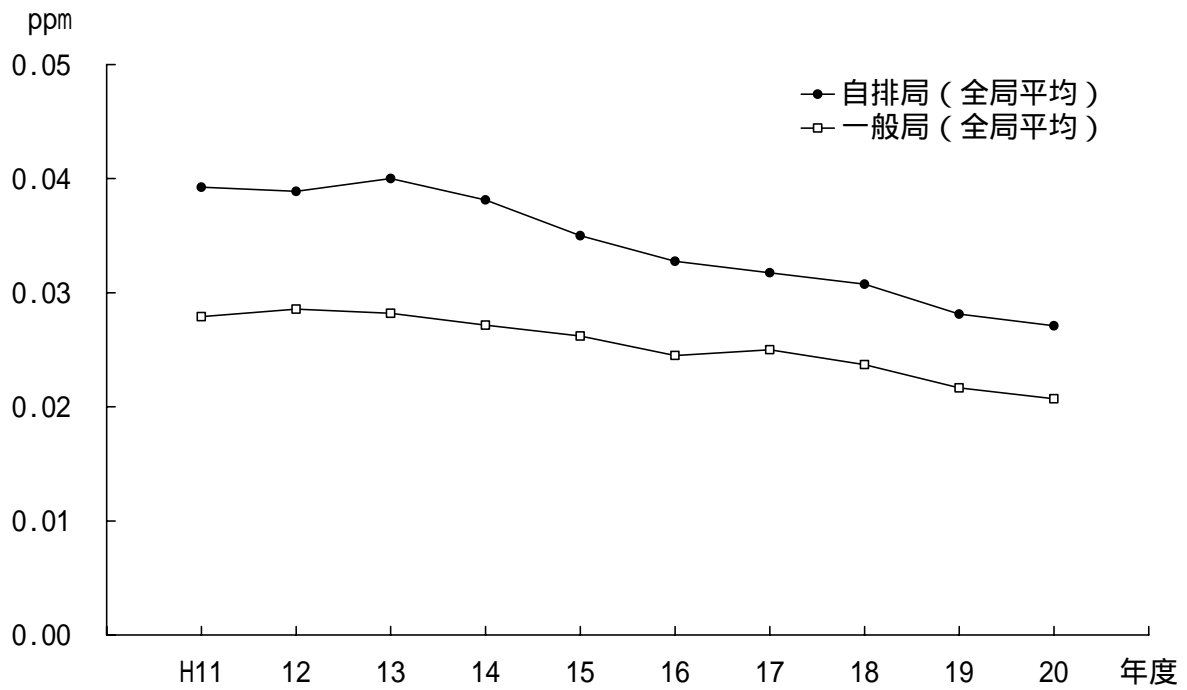


図 2 - 1 二酸化窒素年平均値の経年変化

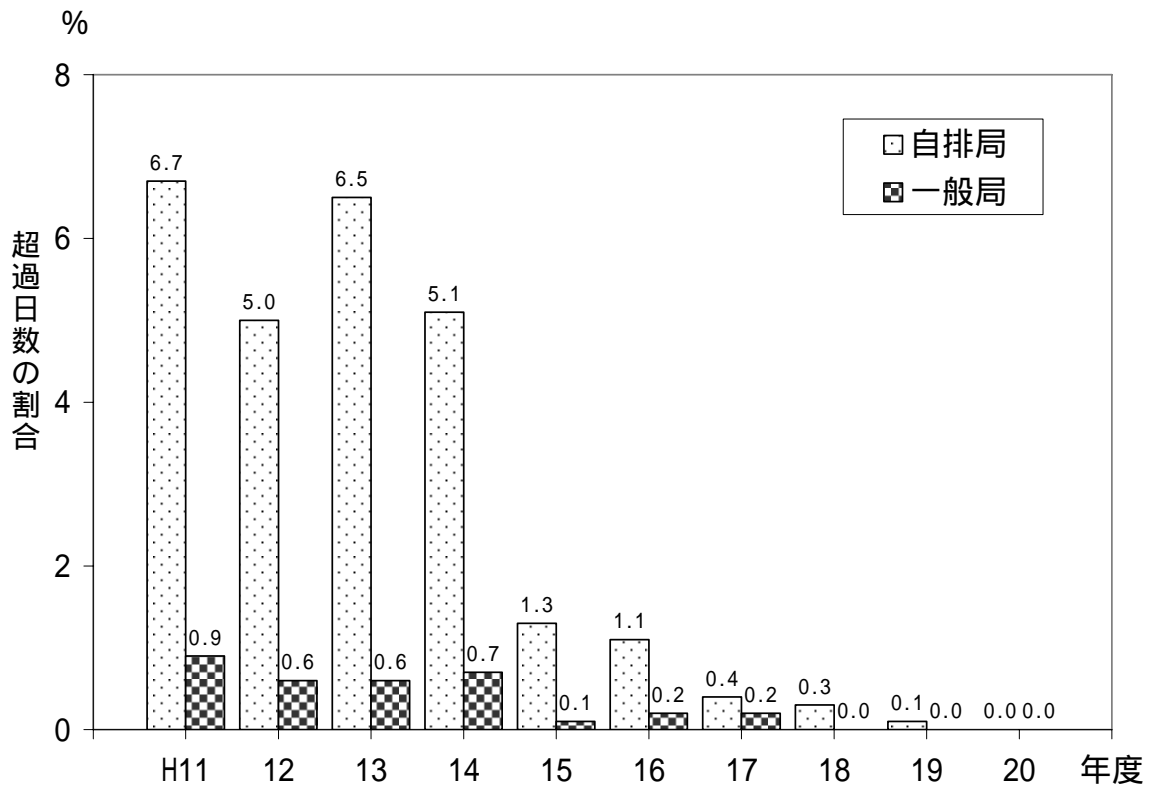


図 2 - 2 二酸化窒素日平均値が環境基準値 (0.06ppm) を超えた日数の割合

表 2 - 5 平成 2 0 年度 浮遊粒子状物質年間測定結果（一般局）

測 定 局	年平均値	1 時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数とその割合		日平均値の 2 %除外値	長期的評価による 環境基準の適否
	(mg/m ³)	(時間)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(適 否 ×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.028	0	0	0.0	0.062	
神奈川区総合庁舎	0.027	0	0	0.0	0.063	
港北区総合庁舎	0.025	0	0	0.0	0.056	
中区加曽台	0.027	0	0	0.0	0.062	
磯子区総合庁舎	0.028	0	0	0.0	0.065	
保土ヶ谷区桜丘高校	0.025	0	0	0.0	0.056	
西区平沼小学校	0.028	0	0	0.0	0.063	
金沢区長浜	0.026	0	0	0.0	0.058	
鶴見区生麦小学校	0.027	0	0	0.0	0.065	
中区本牧	0.028	0	0	0.0	0.067	
戸塚区汲沢小学校	0.027	0	0	0.0	0.060	
港南区野庭中学校	0.025	0	0	0.0	0.056	
旭区鶴ヶ峯小学校	0.026	0	0	0.0	0.060	
瀬谷区南瀬谷小学校	0.028	0	0	0.0	0.065	
南区横浜商業高校	0.027	0	0	0.0	0.059	
栄区上郷小学校	0.027	0	0	0.0	0.063	
緑区三保小学校	0.026	0	0	0.0	0.064	
青葉区総合庁舎	0.026	0	0	0.0	0.059	
都筑区総合庁舎	0.024	0	0	0.0	0.051	
泉区総合庁舎	0.026	0	0	0.0	0.059	
平 均	0.027	-	-	-	0.061	-

表 2 - 6 浮遊粒子状物質年平均値の経年変化（一般局）

(mg/m³)

測定局	年 度									
	平成 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
鶴見区潮田交流プラザ	0.032	0.035	0.033	0.035	0.037	0.032	0.033	0.034	0.030	0.028
神奈川区総合庁舎	0.031	0.035	0.032	0.029	0.034	0.032	0.033	0.032	0.028	0.027
港北区総合庁舎	0.033	0.036	0.035	0.031	0.032	0.029	0.030	0.031	0.026	0.025
中区加曽台	0.029	0.033	0.031	0.029	0.032	0.031	0.034	0.033	0.028	0.027
磯子区総合庁舎	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026	0.030	0.033	0.034	0.028	0.028
保土ヶ谷区桜丘高校	0.031	0.035	0.033	0.030	0.028	0.027	0.032	0.030	0.027	0.025
西区平沼小学校	0.038	0.038	0.039	0.033	0.031	0.027	0.034	0.035	0.030	0.028
金沢区長浜	0.024	0.027	0.025	0.024	0.022	0.020	0.029	0.028	0.027	0.026
鶴見区生麦小学校	0.036	0.038	0.037	0.034	0.034	0.030	0.032	0.032	0.028	0.027
中区本牧	0.026	0.031	0.029	0.032	0.032	0.029	0.032	0.031	0.028	0.028
戸塚区汲沢小学校	0.036	0.038	0.038	0.032	0.031	0.030	0.031	0.031	0.029	0.027
港南区野庭中学校	0.023	0.027	0.027	0.030	0.031	0.033	0.031	0.032	0.028	0.025
旭区鶴ヶ峯小学校	0.026	0.029	0.032	0.031	0.032	0.029	0.032	0.030	0.028	0.026
瀬谷区南瀬谷小学校	0.037	0.037	0.037	0.038	0.038	0.034	0.035	0.034	0.030	0.028
南区横浜商業高校	0.034	0.038	0.036	0.033	0.030	0.029	0.031	0.030	0.028	0.027
栄区上郷小学校	0.025	0.029	0.027	0.026	0.024	0.027	0.030	0.030	0.027	0.027
緑区三保小学校	0.032	0.034	0.034	0.033	0.035	0.029	0.031	0.032	0.028	0.026
青葉区総合庁舎	0.035	0.036	0.035	0.031	0.029	0.029	0.032	0.031	0.027	0.026
都筑区総合庁舎	0.031	0.033	0.031	0.029	0.026	0.027	0.029	0.029	0.026	0.024
泉区総合庁舎	0.033	0.034	0.034	0.032	0.029	0.029	0.031	0.031	0.028	0.026
平 均	0.031	0.034	0.033	0.031	0.031	0.029	0.032	0.032	0.028	0.027

表 2 - 7 平成 2 0 年度 浮遊粒子状物質年間測定結果（自排局）

測 定 局	年平均値 (mg/m ³)	1 時間値が 0.20mg/m ³ を 超えた時間数 (時間)	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた 日数とその割合		日平均値の 2 %除外値 (mg/m ³)	長期的評価による 環境基準の適否 (適 否 ×)
			(日)	(%)		
鶴見区下末吉小学校	0.030	0	2	0.6	0.075	
西区浅間下交差点	0.029	0	0	0.0	0.067	
港南中学校	0.026	0	0	0.0	0.060	
戸塚区矢沢交差点	0.027	1	0	0.0	0.065	
旭区都岡小学校	0.028	0	0	0.0	0.056	
青葉台	0.029	0	0	0.0	0.059	
資源循環都筑工場前	0.027	0	0	0.0	0.061	
磯子区滝頭	0.028	0	0	0.0	0.066	
平 均	0.028	-	-	-	0.064	-

表 2 - 8 浮遊粒子状物質年平均値の経年変化（自排局）

(mg/m³)

年 度	平成	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
測 定 局	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
鶴見区下末吉小学校	0.039	0.041	0.039	0.036	0.036	0.033	0.035	0.035	0.029	0.030	
西区浅間下交差点	0.058	0.059	0.055	0.045	0.038	0.039	0.038	0.037	0.031	0.029	
港南中学校	0.035	0.037	0.034	0.031	0.033	0.032	0.032	0.033	0.029	0.026	
戸塚区矢沢交差点	0.038	0.038	0.036	0.034	0.033	0.032	0.034	0.030	0.027	0.027	
旭区都岡小学校	0.045	0.047	0.044	0.038	0.038	0.034	0.033	0.032	0.027	0.028	
青葉台	0.047	0.047	0.043	0.040	0.042	0.039	0.036	0.035	0.031	0.029	
資源循環都筑工場前	0.039	0.039	0.036	0.033	0.028	0.031	0.031	0.032	0.028	0.027	
磯子区滝頭	0.048	0.048	0.048	0.041	0.035	0.032	0.034	0.033	0.029	0.028	
平 均	0.044	0.045	0.042	0.037	0.035	0.034	0.034	0.033	0.029	0.028	

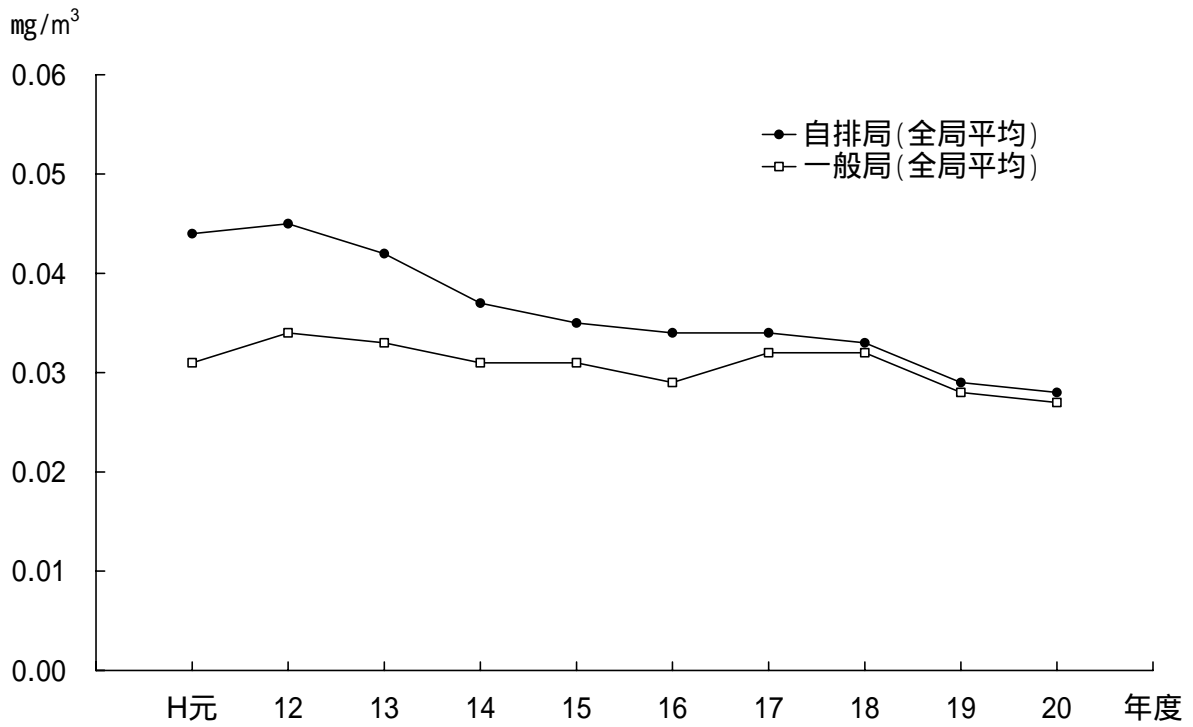


図2 - 3 浮遊粒子状物質年平均値の経年変化

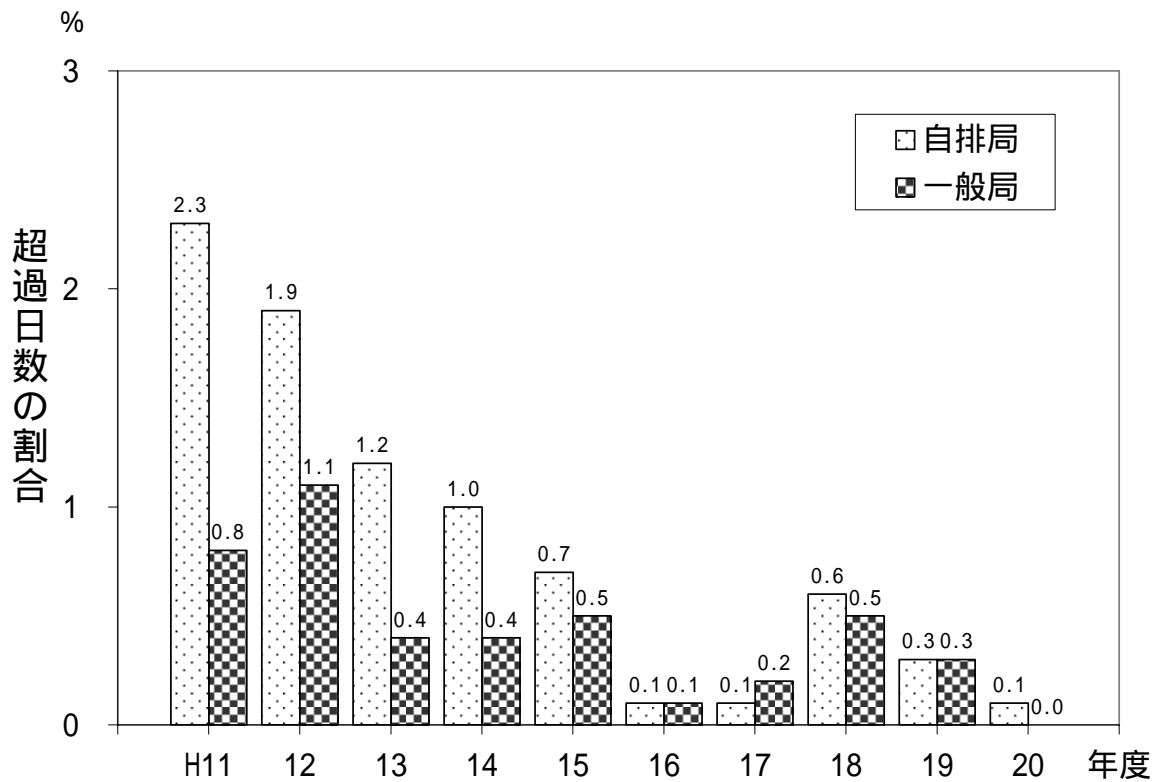


図2 - 4 浮遊粒子状物質日平均値が環境基準値(0.10mg/m³)を超えた日数の割合

表 2 - 9 平成 2 0 年度 光化学オキシダント年間測定結果（一般局）

測 定 局	昼間の 1 時間 値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の 日数と時間数		昼間の 1 時 間値の最高値	環境基準 の適否
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	(適 否 ×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.023	53	214	2	4	0.142	×
神奈川区総合庁舎	0.024	66	277	1	4	0.123	×
港北区総合庁舎	0.025	61	268	3	4	0.127	×
磯子区総合庁舎	0.025	60	249	2	8	0.137	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.028	75	419	2	10	0.139	×
西区平沼小学校	0.027	75	359	2	6	0.131	×
金沢区長浜	0.028	75	372	2	7	0.148	×
鶴見区生麦小学校	0.025	59	268	2	7	0.127	×
中区本牧	0.026	55	264	2	5	0.127	×
戸塚区汲沢小学校	0.030	83	514	4	16	0.146	×
港南区野庭中学校	0.029	79	480	4	13	0.142	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.028	78	424	2	8	0.135	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.028	80	454	2	13	0.136	×
南区横浜商業高校	0.028	78	448	3	11	0.143	×
栄区上郷小学校	0.030	80	460	2	7	0.151	×
緑区三保小学校	0.027	77	432	0	0	0.117	×
青葉区総合庁舎	0.026	78	417	3	6	0.146	×
都筑区総合庁舎	0.028	84	450	4	10	0.137	×
泉区総合庁舎	0.027	67	353	3	10	0.137	×
平 均	0.027	-	-	-	-	-	-

表 2 - 1 0 平成 2 0 年度 光化学スモッグ注意報発令状況

発令回数	発令日	措置種類	発令時刻	光化学オキシダント濃度の市内最高値			市内届出被害者数	神奈川県内の他地域の発令状況
				最高値	測定局	時刻		
1	5月23日(金)	注意報	13:20~18:00	0.129ppm	港南区野庭中学校	13時	0人	川崎、横須賀、湘南、 西湘、県央、北相
2	7月12日(土)	注意報	15:20~16:10	0.127ppm	鶴見区生麦小学校	15時	0人	川崎
3	7月13日(日)	注意報	13:20~21:10	0.148ppm	金沢区長浜	16時	0人	川崎、横須賀、三浦、 湘南、西湘、県央、 北相
4	7月26日(土)	注意報	14:30~16:20	0.123ppm	戸塚区汲沢小学校	14時	0人	なし
5	9月12日(金)	注意報	15:20~16:20	0.121ppm	栄区上郷小学校	15時	0人	横須賀、湘南
6	9月13日(土)	注意報	13:20~20:10	0.151ppm	栄区上郷小学校	16時	2人	川崎、横須賀、三浦、 湘南、西湘、県央、 北相

表 2 - 1 1 光化学スモッグ注意報発令回数及び届出被害者数の推移

年度 項目	昭和																		平成 元
	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	
注意報発令回数	8	10	20	9	12	7	3	11	4	3	8	2	3	4	6	2	12	2	2
警報発令回数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数(人)	2,337	834	1,545	205	6,175	823	909	61	268	0	454	3	178	65	113	0	136	7	0

年度 項目	平成																		
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
注意報発令回数	5	5	10	3	8	11	5	3	4	2	6	8	6	4	10	5	11	13	6
警報発令回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数(人)	0	340	90	0	12	0	0	0	0	0	4	0	5	0	1	226	166	0	2

表 2 - 1 2 平成 2 0 年度 二酸化硫黄年間測定結果（一般局）

測 定 局	年平均値	1 時間値が 0.1ppm を超 えた時間数	日平均値が 0.04ppm を 超えた日数	日平均値の 2 %除外値	長期的評価 による環境 基準の適否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適 否 ×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.007	0	0	0.012	
神奈川区総合庁舎	0.007	0	0	0.013	
港北区総合庁舎	0.006	0	0	0.010	
磯子区総合庁舎	0.007	0	0	0.013	
保土ヶ谷区桜丘高校	0.005	0	0	0.010	
西区平沼小学校	0.005	0	0	0.011	
金沢区長浜	0.006	0	0	0.010	
中区本牧	0.007	0	0	0.013	
戸塚区汲沢小学校	0.004	0	0	0.007	
港南区野庭中学校	0.005	0	0	0.010	
旭区鶴ヶ峯小学校	0.005	0	0	0.009	
瀬谷区南瀬谷小学校	0.004	0	0	0.008	
南区横浜商業高校	0.005	0	0	0.010	
栄区上郷小学校	0.005	0	0	0.009	
緑区三保小学校	0.004	0	0	0.008	
青葉区総合庁舎	0.005	0	0	0.008	
都筑区総合庁舎	0.006	0	0	0.010	
泉区総合庁舎	0.005	0	0	0.009	
平 均	0.005	-	-	0.010	-

表 2 - 1 3 二酸化硫黄年平均値の経年変化（一般局）

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
鶴見区潮田交流プラザ	0.008	0.008	0.009	0.008	0.008	0.009	0.009	0.008	0.007	0.007
神奈川区総合庁舎	0.007	0.009	0.009	0.008	0.008	0.008	0.008	0.008	0.007	0.007
港北区総合庁舎	0.007	0.007	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006
磯子区総合庁舎	0.007	0.008	0.009	0.008	0.008	0.007	0.008	0.008	0.006	0.007
保土ヶ谷区桜丘高校	0.005	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005
西区平沼小学校	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005
金沢区長浜	0.005	0.006	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.006
中区本牧	0.007	0.009	0.010	0.009	0.007	0.008	0.009	0.009	0.008	0.007
戸塚区汲沢小学校	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004
港南区野庭中学校	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005
旭区鶴ヶ峯小学校	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005
瀬谷区南瀬谷小学校	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004
南区横浜商業高校	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005
栄区上郷小学校	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
緑区三保小学校	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004
青葉区総合庁舎	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005
都筑区総合庁舎	0.006	0.007	0.008	0.007	0.007	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006
泉区総合庁舎	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005
平均	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005

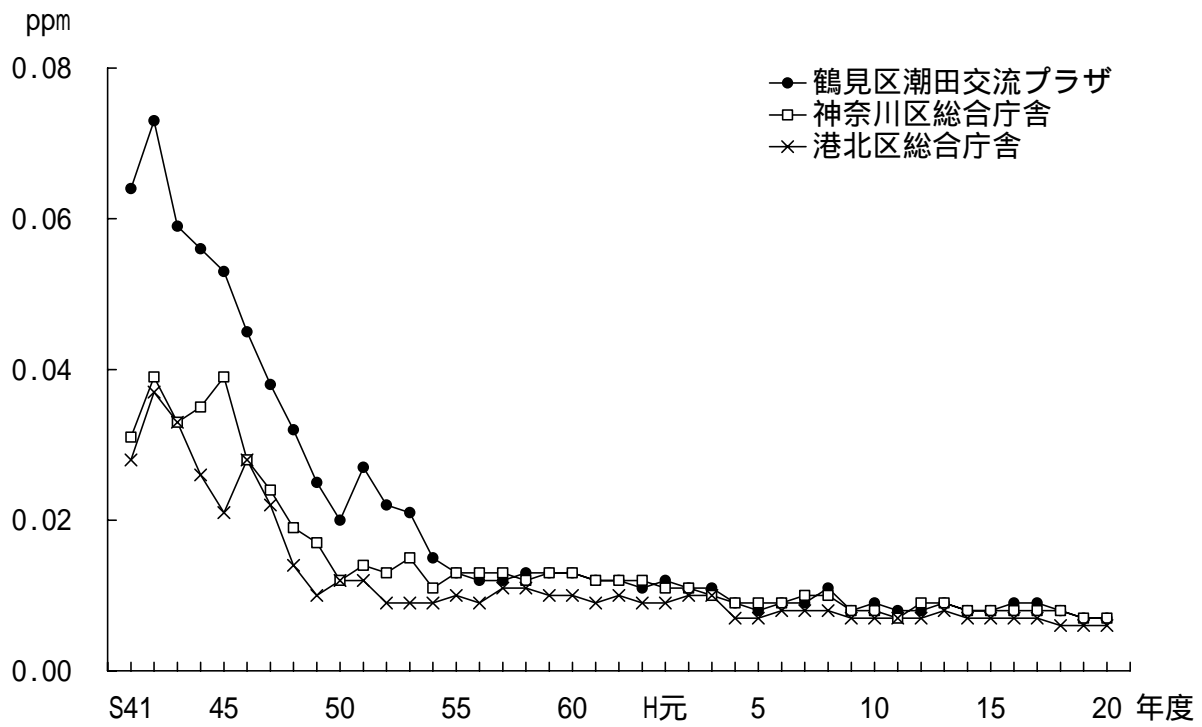


図 2 - 5 二酸化硫黄年平均値の経年変化（一般局継続3局）

表 2 - 1 4 平成 2 0 年度 一酸化炭素年間測定結果 (自排局)

測 定 局	年平均値	8 時間値が 20ppm を超えた回数	日平均値が 10ppm を超えた日数	日平均値の 2 %除外値	長期的評価による 環境基準の適否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適 否 ×)
西区浅間下交差点	0.8	0	0	1.4	
旭区都岡小学校	0.7	0	0	1.4	
青葉台	0.6	0	0	1.0	
平 均	0.7	-	-	1.3	-

表 2 - 1 5 一酸化炭素年平均値の経年変化 (自排局)

測 定 局 \ 年 度	(ppm)									
	平成 11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
西区浅間下交差点	1.7	1.6	1.6	1.4	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	0.8
旭区都岡小学校	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9	0.8	0.8	0.9	0.8	0.7
青葉台	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6
平 均	1.3	1.2	1.2	1.1	1.0	0.9	0.9	0.9	0.8	0.7

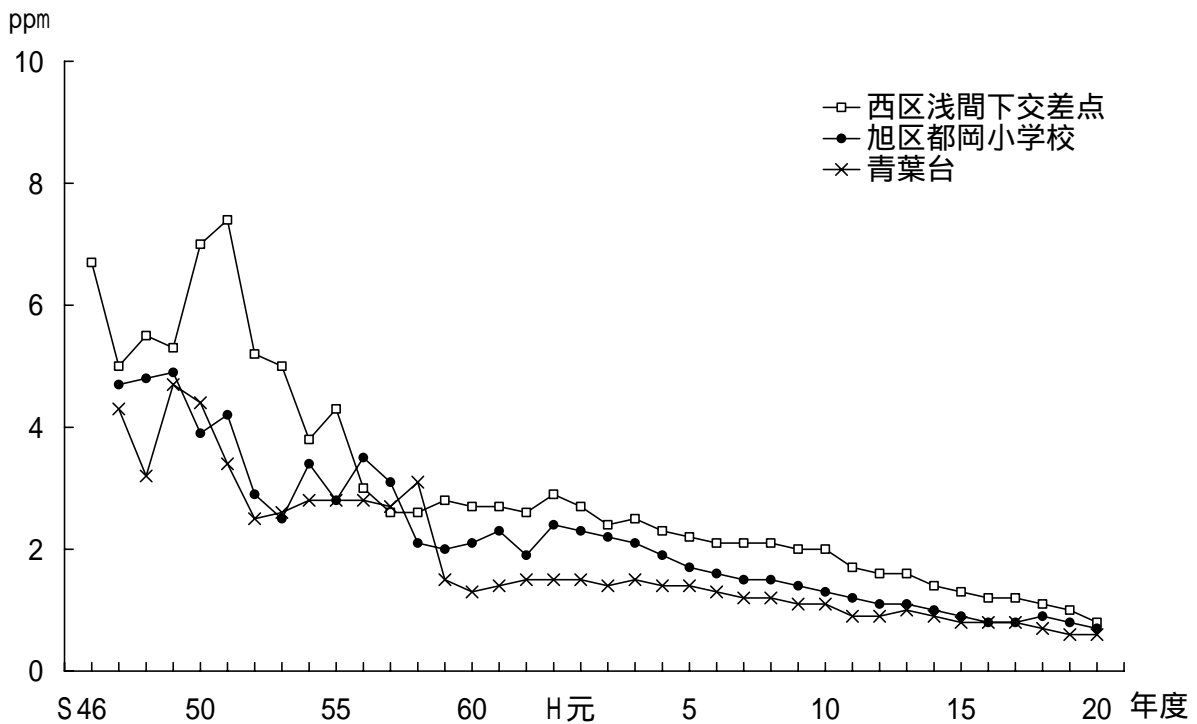


図 2 - 6 一酸化炭素年平均値の経年変化 (自排局継続 3 局)

3 有害大気汚染物質の常時監視測定結果

表3-1 平成20年度 環境基準が設定されている4物質の測定結果

測定局		測定項目	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
			μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³
固定発生源周辺	鶴見区 潮田交流プラザ		1.9	0.79	0.34	2.2
	中区本牧		1.6	0.58	0.27	1.4
一般環境	緑区三保小学校		1.6	0.58	0.32	1.8
沿道	戸塚区矢沢交差点		1.8	0.49	0.31	2.6
	磯子区滝頭		2.2	0.51	0.26	1.6

表3-2 平成20年度 指針値が設定されている7物質の測定結果

測定局		測定項目	アクリロニトリル	塩化ビニルモノマー	ニッケル化合物	水銀及びその化合物	クロロホルム	1,2-ジクロロエタン	1,3-ブタジエン
			μg/m ³	μg/m ³	ng/m ³	ng/m ³	μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³
固定発生源周辺	鶴見区 潮田交流プラザ		0.088	0.028	6.9	2.0	0.19	0.10	0.14
	中区本牧		0.085	0.028	8.6	1.8	0.20	0.10	0.14
一般環境	緑区三保小学校		0.050	0.028	3.5	2.1	0.18	0.13	0.18
沿道	戸塚区矢沢交差点		0.067	0.020	5.2	1.9	0.16	0.13	0.23
	磯子区滝頭		0.065	0.022	6.3	1.9	0.16	0.099	0.30

表3-3 平成20年度 その他11物質の測定結果(1)

測定局		測定項目	アセトアルデヒド	ホルムアルデヒド	四塩化炭素	1,2-ジクロロプロパン	1,1,1-トリクロロエタン	酸化エチレン
			μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³	μg/m ³
固定発生源周辺	鶴見区 潮田交流プラザ		4.2	4.3	0.59	0.090	0.074	0.082
	中区本牧		2.2	2.7	0.56	0.074	0.070	0.057
一般環境	緑区三保小学校		2.3	2.7	0.58	0.059	0.076	0.049
沿道	戸塚区矢沢交差点		2.7	2.8	0.59	0.064	0.074	0.054
	磯子区滝頭		2.9	3.4	0.58	0.081	0.074	0.057

表3-4 平成20年度 その他11物質の測定結果(2)

測定局		測定項目	ベンゾ(a)ピレン	ベリリウム及びその化合物	マンガン及びその化合物	クロム及びその化合物	ヒ素及びその化合物
			ng/m ³	ng/m ³	ng/m ³	ng/m ³	ng/m ³
固定発生源周辺	鶴見区 潮田交流プラザ		0.24	0.066	29	11	1.2
	中区本牧		0.19	0.12	26	7.3	1.2
一般環境	緑区三保小学校		0.25	0.043	20	4.6	1.1
沿道	戸塚区矢沢交差点		0.27	0.053	23	7.6	1.2
	磯子区滝頭		0.25	0.078	25	10	1.1

μg : マイクログラム。1マイクログラムは、100万分の1グラム。

ng : ナノグラム。1ナノグラムは、10億分の1グラム。

4 ダイオキシン類の常時監視測定結果

表4 平成20年度 大気環境中ダイオキシン類測定結果

(pg-TEQ/m³)

測 定 局	春	夏	秋	冬	年平均値
	5月15日 ~ 5月22日	8月14日 ~ 8月21日	11月13日 ~ 11月20日	1月27日 ~ 2月3日	
神奈川区総合庁舎	0.025	0.036	0.051	0.038	0.038
南区横浜商業高校	0.021	0.030	0.045	0.038	0.034
保土ヶ谷区桜丘高校	0.022	0.033	0.046	0.037	0.035
磯子区総合庁舎	0.021	0.028	0.046	0.038	0.033
金沢区長浜	0.016	0.019	0.038	0.029	0.026
港南区野庭中学校	0.016	0.026	0.036	0.030	0.027
緑区三保小学校	0.017	0.032	0.035	0.028	0.028
泉区総合庁舎	0.022	0.036	0.043	0.035	0.034
都筑区総合庁舎	0.024	0.037	0.044	0.029	0.034
平 均	0.020	0.031	0.043	0.034	-

pg : ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム。

TEQ : 「毒性等量」。異性体が多数存在するダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシンの量に換算した量として表示していることを示す符号。

なお、毒性等量の換算には、世界保健機関の毒性等価係数WHO-TEFを用いている。平成11年度から19年度まではWHO-TEF(1998)を適用。20年度よりWHO-TEF(2006)を適用。

5 大気汚染に関する環境基準等

表5 - 1 大気汚染に関する環境基準及び評価方法

物質	環境基準	評価方法
二酸化硫黄	日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価 * 1
二酸化窒素	日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内、又はそれ以下であること。	98%値評価 * 2
浮遊粒子状物質	日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	長期的評価 * 1
一酸化炭素	日平均値が10ppm以下であり、かつ、8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価 * 1
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	昼間 * 3

* 1 : 年間の日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値(2%除外値)を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、不適合と評価する。

* 2 : 年間の日平均値のうち、低いほうから98%に相当するものを環境基準と比較して評価する。

* 3 : 5時~20時の測定値を対象とする。

表5 - 2 有害大気汚染物質に関する環境基準

物質	環境基準
ベンゼン	年平均値が3 µg/m ³ (0.003 mg/m ³) 以下
トリクロロエチレン	年平均値が200 µg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
テトラクロロエチレン	年平均値が200 µg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
ジクロロメタン	年平均値が150 µg/m ³ (0.15 mg/m ³) 以下

表5 - 3 有害大気汚染物質に関する指針値

物質	指針値
アクリロニトリル	年平均値が2 µg/m ³ 以下
塩化ビニルモノマー	年平均値が10 µg/m ³ 以下
ニッケル化合物	年平均値が25 ngNi/m ³ 以下
水銀	年平均値が40 ngHg/m ³ 以下
クロロホルム	年平均値が18 µg/m ³ 以下
1,2-ジクロロエタン	年平均値が1.6 µg/m ³ 以下
1,3-ブタジエン	年平均値が2.5 µg/m ³ 以下

表5 - 4 大気に係るダイオキシン類の環境基準

物質	環境基準
ダイオキシン類	年平均値が0.6 pg-TEQ/m ³ 以下

資料 2

平成 20 年度水質汚濁及び地盤沈下の状況

1	公共用水域水質及び中小河川水質状況	1
2	地下水質状況	18
3	地盤沈下状況	22

横浜市環境創造局環境管理課・規制指導課

1 公共用水域水質及び中小河川水質状況

(1) 公共用水域水質測定及び中小河川水質調査内容

表 1 - 1 公共用水域水質測定地点

【河川】

水域名	支川名	測定地点	類型	測定機関
鶴見川上流	恩田川 大熊川 鳥山川	千代橋	D	横浜市
		亀の子橋	D	国土交通省
		都橋	(D)	横浜市
		大竹橋	(D)	国土交通省
		又口橋	(D)	国土交通省
鶴見川下流	早湊川 矢上川	大綱橋	E	国土交通省
		末吉橋	E	国土交通省
		臨港鶴見川橋	E	国土交通省
		峰大橋	(E)	国土交通省
		矢上川橋	(E)	国土交通省
入江川		入江橋	B	横浜市
帷子川		水道橋	B	横浜市
大岡川		清水橋	B	横浜市
宮川		瀬戸橋	B	横浜市
侍従川		平潟橋	B	横浜市
境川	柏尾川 柏尾川 いたち川	鶴間橋	D	大和市
		新道大橋	D	大和市
		高鎌橋	D	横浜市
		吉倉橋	D	横浜市
		鷹匠橋	D	横浜市
		いたち川橋	D	横浜市

注： は環境基準点（その水域の水質を代表する地点）

境川の環境基準点は境川橋（藤沢市）

【海域】

水域名	測定地点	類型	測定機関
東京湾 6	鶴見川河口先	C	横浜市
	横浜港内	C	横浜市
東京湾 7	磯子沖	C	横浜市
東京湾 10	平潟湾内	B	横浜市
東京湾 12	本牧沖	B	横浜市
	富岡沖	B	横浜市
	平潟湾沖	B	横浜市

注： は環境基準点（その水域の水質を代表する地点）

表 1 - 2 中小河川水質調査地点

水域名	支川名	測定地点	類型
鶴見川	砂田川	団地入口橋 *	(D)
	黒須田川	耕地橋	(D)
	布川	荏田管理橋	(D)
	寺家川	宮前橋	(D)
	鴨志田川	鴨志田管理橋	(D)
	奈良川	神前橋	(D)
	大場川	竹の下橋	(D)
	鴨居川	鴨居橋	(D)
	岩川	屋敷橋	(D)
	台村川	三台橋	(D)
	しらとり川	真橋	(D)
帷子川	堀谷戸川	中井橋	B
	矢指川	耕地橋	B
	今井川	八幡橋	B
	中堀川	浜串橋	B
	二俣川	四季美橋	B
	新井川	分水路際 *	B
	くぬぎだい川	原下橋	B
	菅田川	新川島橋	B
大岡川	日野川	港南橋	B
境川	大門川	中川橋	D
	相沢川	童橋	D
	和泉川	鍋屋橋	D
	宇田川	宇田川橋	D
	阿久和川	トーヨー橋	D
	平戸永谷川	渡戸橋	D
	舞岡川	元舞橋	D

* : 橋の名称がないため便宜的につけた

: 鶴見川上流域の類型を準用

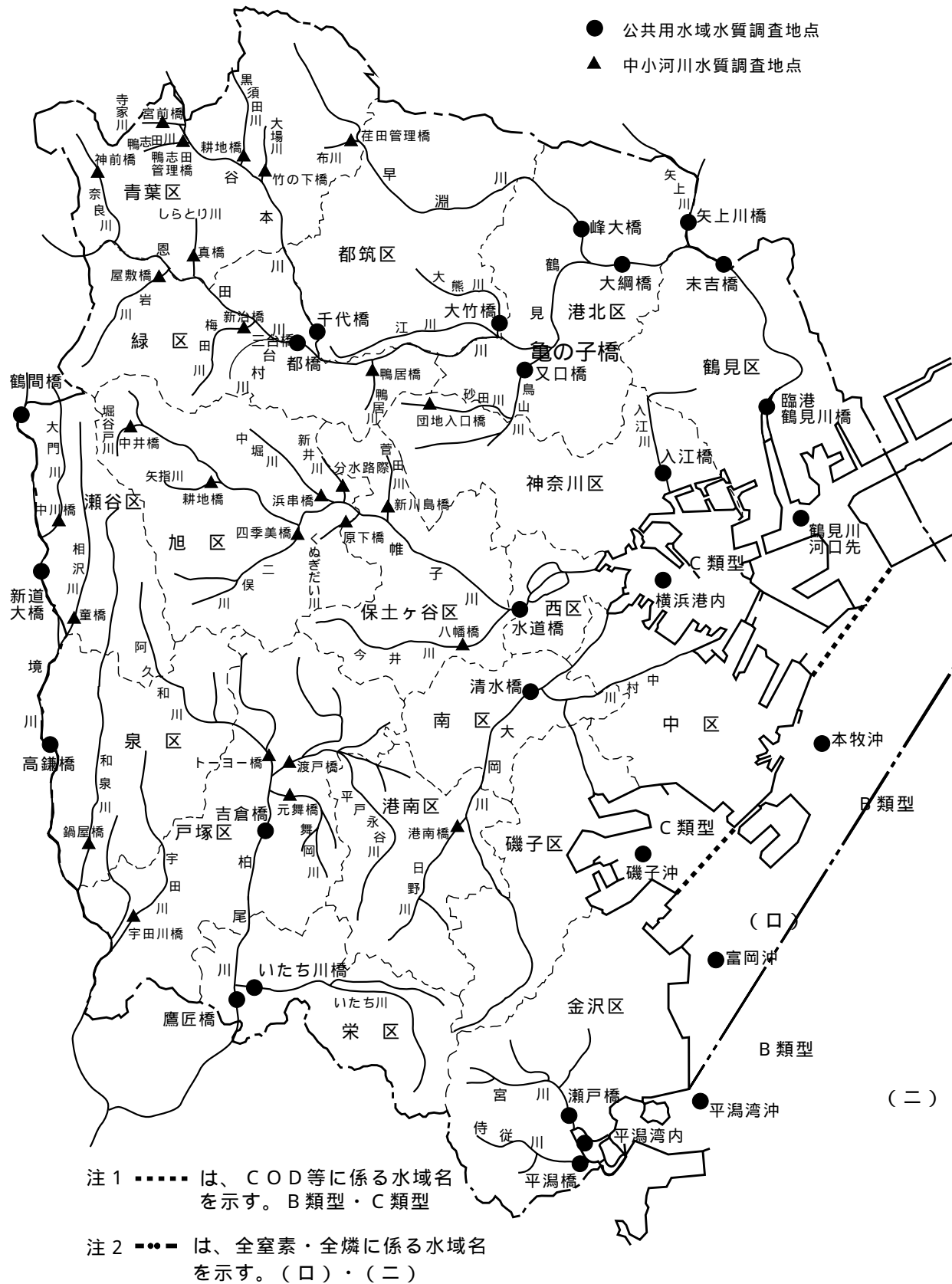


図1-1 公共用水域水質測定及び中小河川水質調査地点

表 1 - 3 公共用水域水質測定及び中小河川水質調査内容

測定内容	公共用水域水質測定	中小河川水質調査
測定期間	平成 20 年 4 月 ~ 平成 21 年 3 月	
測定地点	河川：21 地点 海域：7 地点	河川：27 地点
測定項目	健康項目：26 項目 1 生活環境項目：10 項目 2 特殊項目：7 項目 3 その他項目：8 項目 4 観測項目：13 項目 5	生活環境項目：4 項目 2
測定回数	年 12 回 (月 1 回)	年 2 回
測定方法	河川：2 回採水 海域：1 回採水 (上層(表層)・下層)	1 回採水

- 1：人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた項目で、カドミウム、全シアン、鉛など 26 項目ある。
- 2：生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準として環境基準が定められた項目で、pH、BOD、COD など 10 項目ある。
- 3：法・条例の排水規制の対象である項目で、フェノール類、銅、溶解性鉄など 7 項目ある。
- 4：環境基準の達成状況を判断する上で必要な項目で、アンモニア性窒素、磷酸態磷、電気伝導率など 8 項目ある。
- 5：採水時に現場にて観測する項目で、天候、前日天候、水深など 13 項目ある。

(2) 公共用水域水質測定及び中小河川水質調査結果

表 1 - 4 平成 20 年度 健康項目環境基準適合地点数

項 目	調査 地点数	環境基 準適合 地点数	適合率 (%)	項 目	調査 地点数	環境基 準適合 地点数	適合率 (%)
カドミウム	23	23	100	1,1,1-トリクロロエタン	23	23	100
全シアン	23	23	100	1,1,2-トリクロロエタン	23	23	100
鉛	23	23	100	トリクロロエチレン	23	23	100
六価クロム	23	23	100	テトラクロロエチレン	23	23	100
砒素	23	23	100	1,3-ジクロロプロペン	23	23	100
総水銀	23	23	100	チウラム	23	23	100
アルキル水銀	0	-	-	シマジン	23	23	100
P C B	16	16	100	チオベンカルブ	23	23	100
ジクロロメタン	23	23	100	ベンゼン	23	23	100
四塩化炭素	23	23	100	セレン	23	23	100
1,2-ジクロロエタン	23	23	100	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	28	28	100
1,1-ジクロロエチレン	23	23	100	ふっ素	11	11	100
シス-1,2-ジクロロエチレン	23	23	100	ほう素	11	11	100

表 1 - 5 平成 20 年度 生活環境項目環境基準適合検体数

水 域	測 定 項 目	調査検体数			環境基準適合状況					
		公共用 水域	中 小 河 川	計	適合検体数			適合率 (%)		
					公共用 水域	中 小 河 川	計	公共用 水域	中 小 河 川	計
河 川	水素イオン濃度 (pH)	612	54	666	611	40	651	99	74	98
	生物化学的酸素要求量 (BOD)	612	54	666	585	53	638	96	99	96
	溶存酸素量 (DO)	612	54	666	597	54	651	98	100	98
	浮遊物質 (SS)	612	-	612	611	-	611	99	-	99
	計	2,448	162	2,610	2,404	147	2,551	98	91	98
海 域	水素イオン濃度 (pH)	84	-	84	73	-	73	87	-	87
	化学的酸素要求量 (COD)	84	-	84	69	-	69	82	-	82
	溶存酸素量 (DO)	84	-	84	84	-	84	100	-	100
	n - ヘキサン抽出物質	48	-	48	48	-	48	100	-	100
	計	300	-	300	274	-	274	87	-	87
総 計	2,748	162	2,910	2,678	147	2,825	98	91	97	

注：基準の適合率が99%を超え100%未満の場合は、99%と表示した。

表 1 - 6 B O D (河川) 及び C O D (海域) 環境基準適合状況推移

年 度		H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
河川	測定地点数	19	19	19	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
	適合地点数	10	9	12	14	13	11	11	13	16	14	18	19	17	19	19	19	18	19	20	20
	適合率 (%)	53	47	63	67	62	52	52	62	76	67	86	90	81	90	90	90	86	90	95	95
海域	測定地点数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	適合地点数	6	4	6	6	6	3	3	5	6	3	4	5	6	4	3	6	3	3	5	5
	適合率 (%)	86	57	86	86	86	43	43	71	86	43	57	71	86	57	43	86	43	43	71	71

表 1 - 7 平成 2 0 年度 東京湾全窒素及び全燐測定結果

(mg/L)

水域名	類型	測定地点	全 窒 素			全 燐		
			測定値	環 境 基 準		測定値	環 境 基 準	
				適 否	基 準 値		適 否	基 準 値
東京湾 (口)		鶴見川河口先	2.2	×	1以下	0.15	×	0.09以下
		横浜港内	1.2	×		0.10	×	
		磯子沖	0.82			0.064		
		本牧沖	0.91			0.078		
		富岡沖	0.72			0.055		
東京湾 (二)		平潟湾内	0.78	×	0.6以下	0.067	×	0.05以下
		平潟湾沖	0.76	×		0.069	×	

注：適合 ○ 不適合 ×

表 1 - 8 東京湾全窒素及び全燐環境基準適合状況推移

年 度		H1 1	1 2	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7	1 8	1 9	2 0
全窒素	適合地点数	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
	適合率 (%)	4 3	4 3	4 3	4 3	4 3	4 3	4 3	4 3	5 7	4 3
全 燐	適合地点数	3	3	3	3	3	4	4	3	4	3
	適合率 (%)	4 3	4 3	4 3	4 3	4 3	5 7	5 7	4 3	5 7	4 3

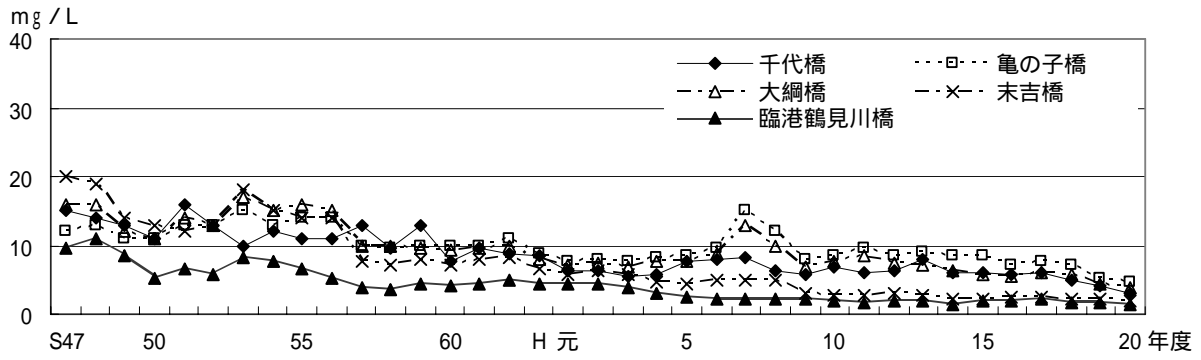


図 1 - 2 鶴見川本川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

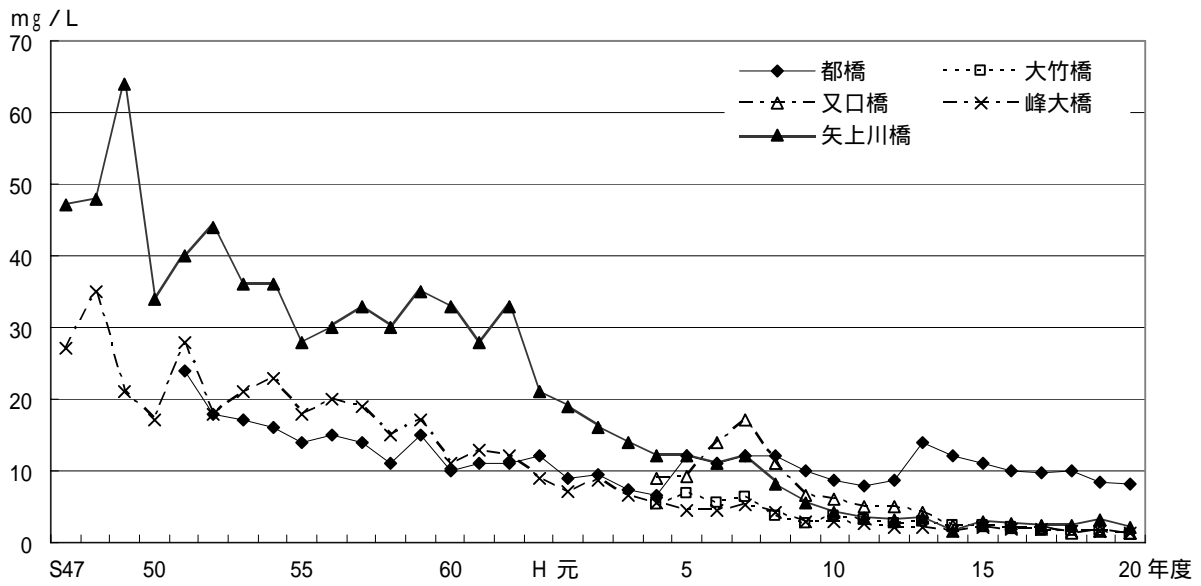


図 1 - 3 鶴見川支川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

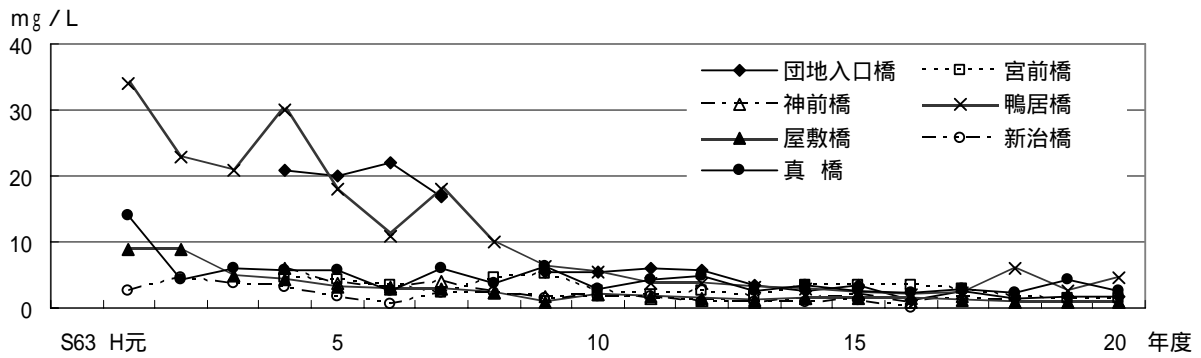


図 1 - 4 鶴見川支川 B O D 年平均値経年変化 (中小河川水質調査)

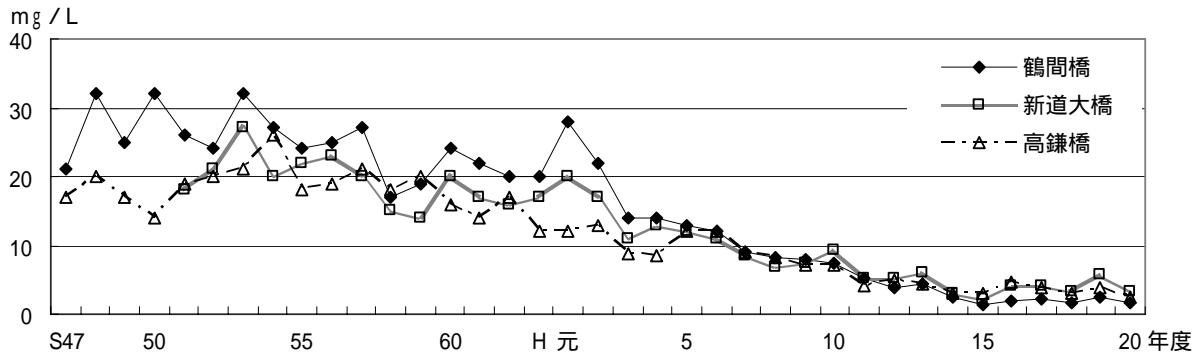


図 1 - 5 境川本川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

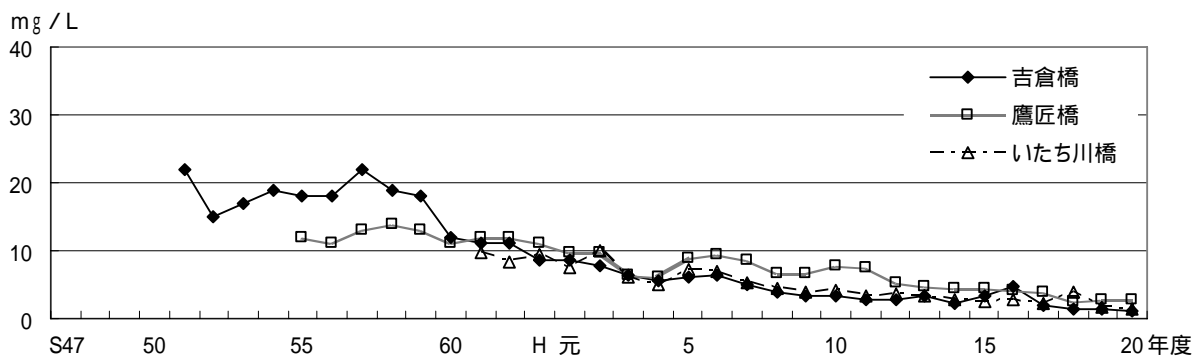


図 1 - 6 柏尾川・いたち川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

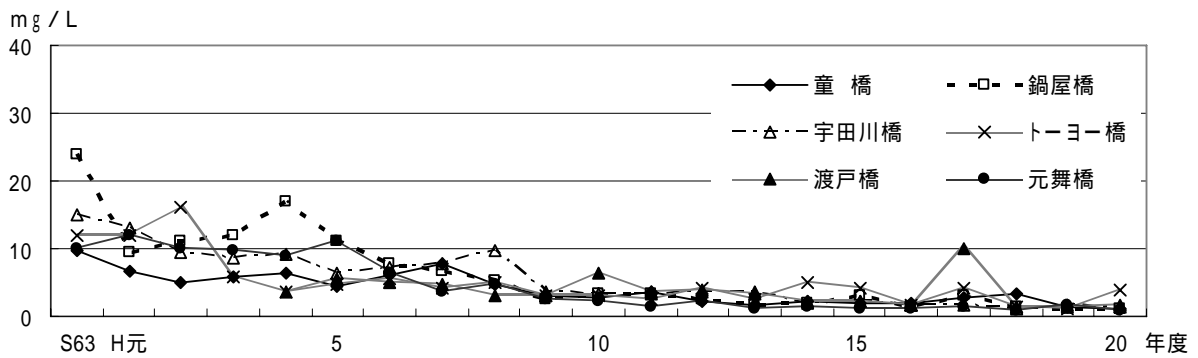


図 1 - 7 境川支川 B O D 年平均値経年変化 (中小河川水質調査)

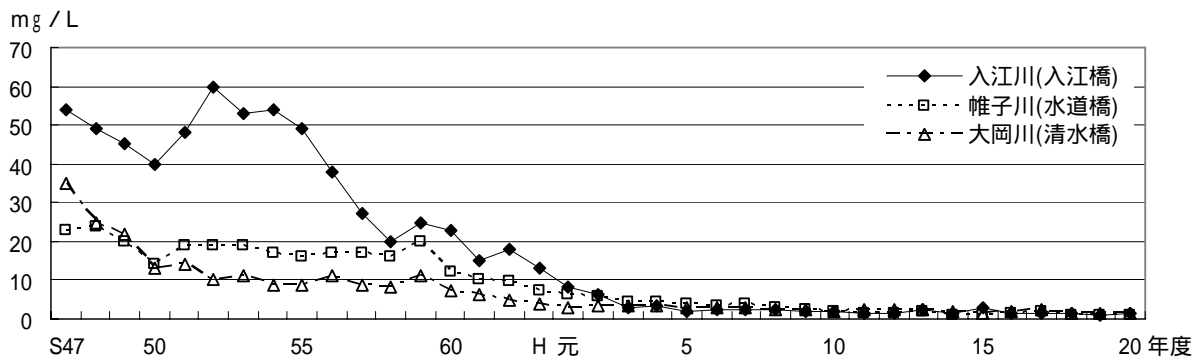


図 1 - 8 入江川・帷子川・大岡川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

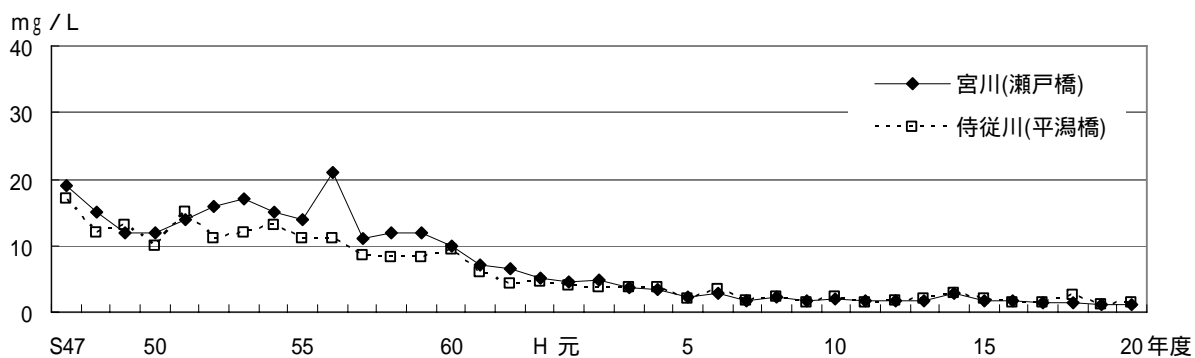


図 1 - 9 宮川・侍従川 B O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

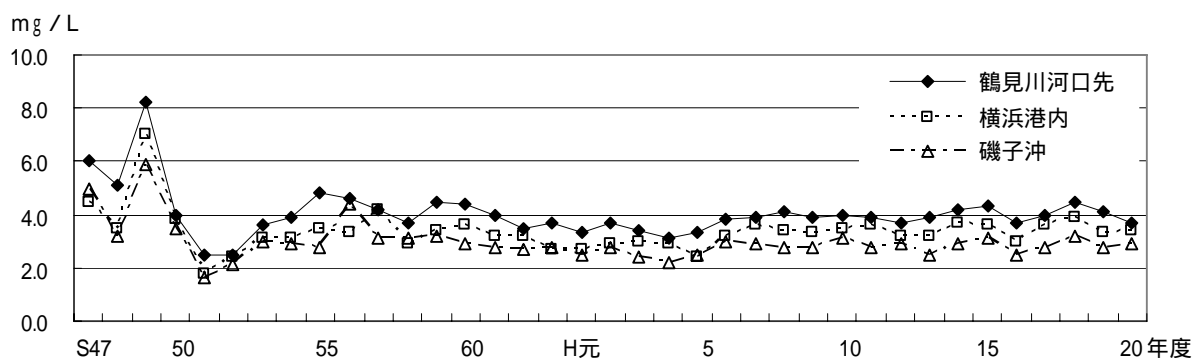


図 1 - 10 東京湾 C 類型 C O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

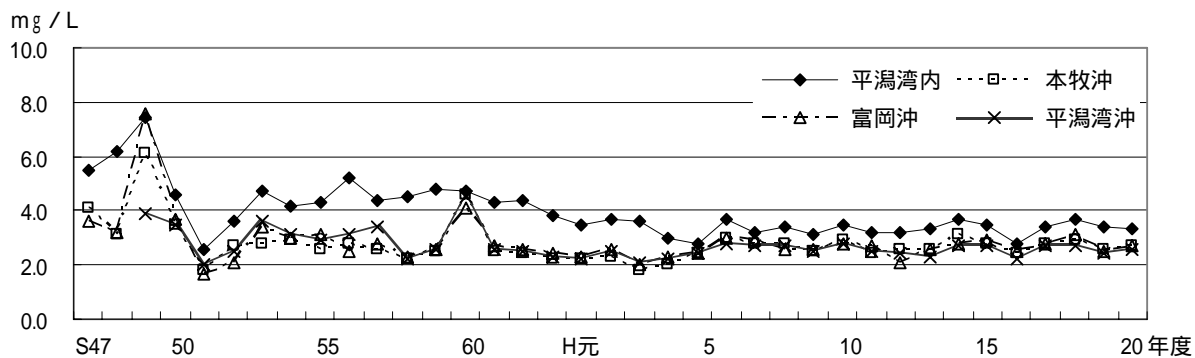


図 1 - 11 東京湾 B 類型 C O D 年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

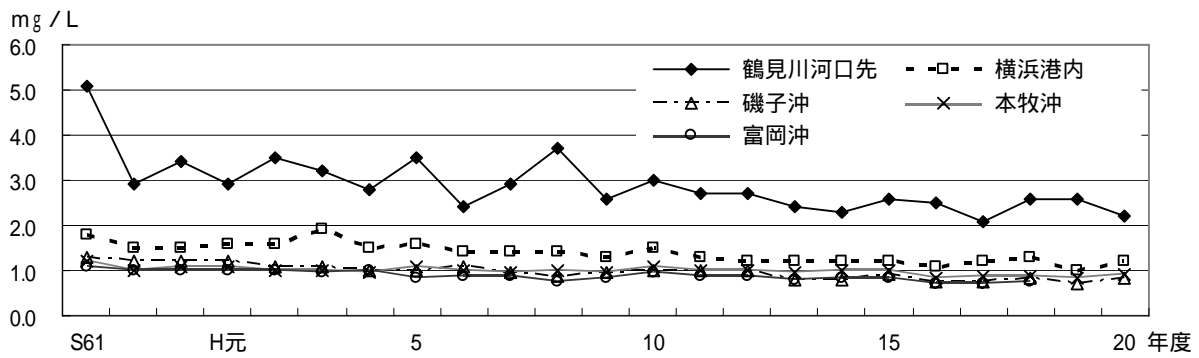


図 1 - 1 2 東京湾 類型全窒素年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

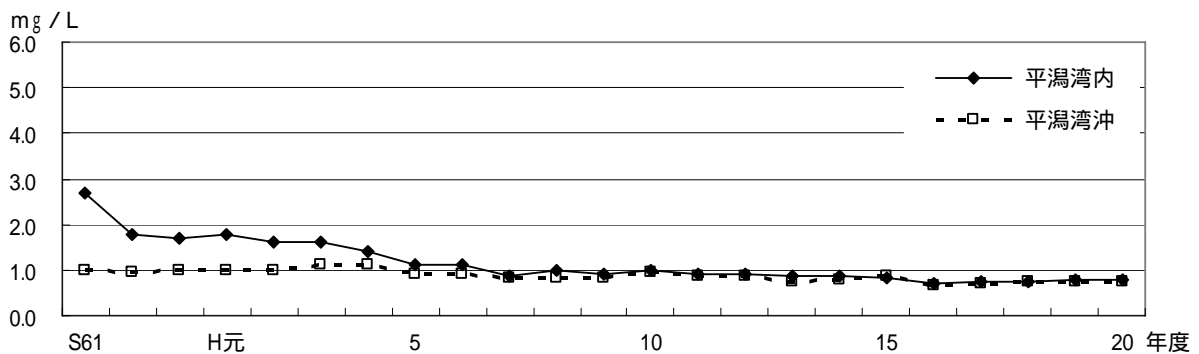


図 1 - 1 3 東京湾 類型全窒素年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

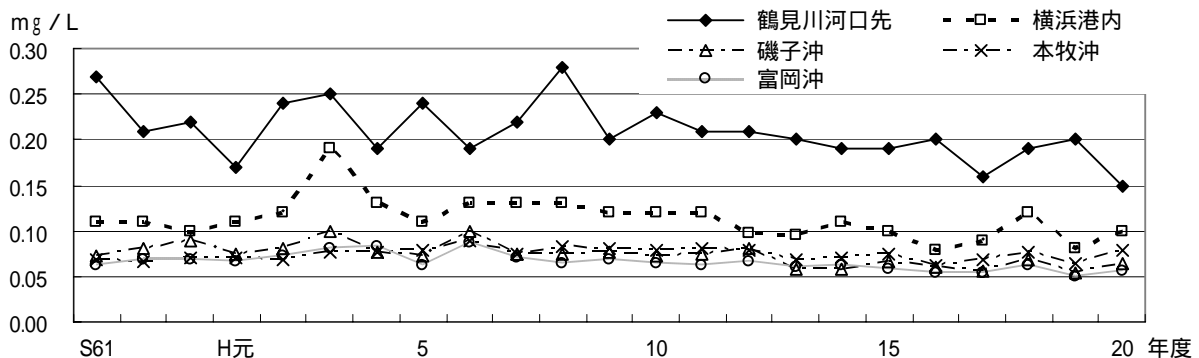


図 1 - 1 4 東京湾 類型全燐年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

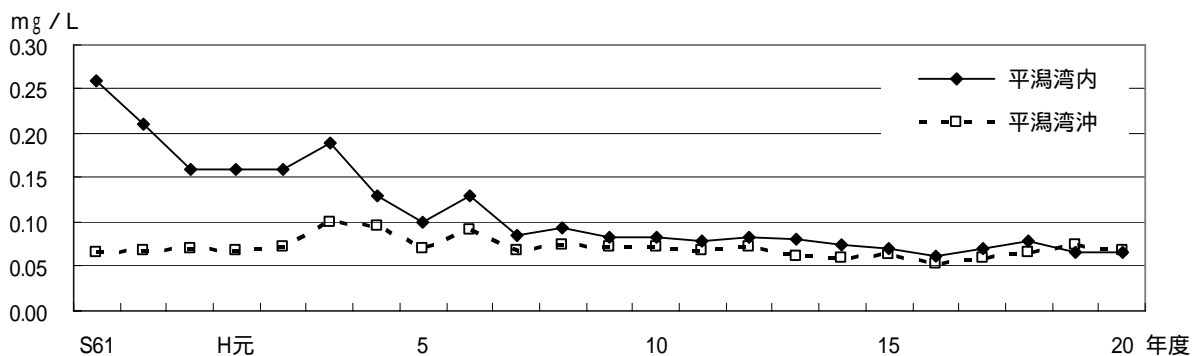


図 1 - 1 5 東京湾 類型全燐年平均値経年変化 (公共用水域水質測定)

表1 - 9 河川BOD年平均値経年変化（公共用水域水質測定）

水域名	類型	河川名	測定地点名	H元	(ng / L)																			
					2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	6.2	6.4	5.6	5.8	7.7	7.9	7.9	8.1	6.4	5.8	6.9	5.9	6.2	8.0	6.0	6.0	5.8	5.9	4.8	4.1	3.0
	D	"	亀の子橋	7.6	8.0	7.8	8.2	8.6	9.5	15	12	7.9	8.6	9.7	8.4	9.1	8.6	8.6	7.2	7.6	7.1	5.2	4.6	
	E	"	大綱橋	7.1	7.5	6.8	7.8	7.8	8.9	13	9.9	6.8	7.6	8.5	7.3	7.0	6.4	5.8	5.6	6.0	5.7	4.3	3.7	
臨港鶴見川橋	E	"	末吉橋	5.8	6.2	5.7	4.7	4.5	5.0	5.0	4.8	2.9	2.8	2.8	3.1	2.7	2.3	2.2	2.3	2.1	2.2	2.2	2.2	2.0
	E	"	都橋	4.3	4.4	3.9	3.0	2.5	2.3	2.3	2.3	2.3	1.8	1.7	1.9	2.0	1.4	1.9	2.0	2.3	1.6	1.6	1.5	
入江川	(D)	恩田川	都橋	9.0	9.6	7.3	6.6	12	11	12	12	10	8.6	8.0	8.7	14	12	11	10	9.8	10	8.5	8.1	
	(D)	大熊川	大竹橋	-	-	-	5.3	6.9	5.4	6.3	3.8	2.7	3.7	3.2	2.7	3.0	2.4	2.4	1.9	1.7	1.7	1.6	1.6	1.0
帷子川	(D)	烏山川	又口橋	-	-	-	8.9	9.3	14	17	11	6.7	6.0	5.0	5.1	4.3	2.5	2.3	2.2	2.0	1.2	1.7	1.2	
	(E)	早瀬川	峰大橋	7.2	8.7	6.5	5.4	4.6	4.6	5.2	4.3	2.9	3.0	2.6	2.1	2.2	1.7	2.1	1.8	1.8	1.7	1.6	1.2	
大岡川	(E)	矢上川	矢上川橋	19	16	14	12	12	11	12	8.1	5.5	4.2	3.5	3.1	3.3	1.7	2.9	2.7	2.5	2.5	3.1	2.1	
	B*	入江川	入江橋	8.4	6.2	3.1	3.3	1.9	2.6	2.5	2.3	2.0	1.9	1.7	1.7	2.4	1.7	3.1	1.7	1.5	1.6	1.2	1.3	
宮川	B*	帷子川	水道橋	6.2	6.0	4.5	4.5	4.1	3.3	3.8	3.1	2.6	1.8	1.7	1.6	1.9	1.2	1.1	1.4	1.8	0.9	1.1	1.1	
	B*	大岡川	清水橋	3.1	3.4	3.3	3.3	3.1	3.0	2.8	2.2	2.2	2.1	2.3	2.3	2.3	2.0	1.6	2.0	2.2	1.7	1.3	1.6	
侍従川	B*	宮川	瀬戸橋	4.5	4.9	3.6	3.3	2.4	2.9	1.8	2.2	1.8	2.0	1.8	1.8	1.8	2.8	1.7	1.6	1.3	1.4	1.2	1.0	
	B*	侍従川	平湯橋	4.0	3.7	3.8	3.6	2.1	3.3	1.7	2.2	1.5	2.3	1.5	1.6	1.9	2.8	2.0	1.4	1.5	2.5	1.2	1.3	
境川	D	境川	鶴間橋	28	22	14	14	13	12	12	9.1	8.2	8.0	7.4	5.1	3.7	4.5	1.4	2.0	2.1	1.7	2.4	1.6	
	D	"	新道大橋	20	17	11	13	12	11	11	8.4	6.9	7.4	9.2	5.3	5.1	6.0	2.2	4.0	4.0	3.2	5.8	3.4	
柏尾川	D	"	高嶽橋	12	13	8.8	8.6	12	12	9.0	8.2	7.1	6.7	4.1	5.0	4.5	2.9	3.1	4.7	3.8	3.0	3.9	2.4	
	D	柏尾川	吉倉橋	8.7	7.7	6.4	5.6	6.1	6.3	5.1	3.8	3.3	3.4	2.7	2.9	3.2	2.3	3.2	4.6	1.9	1.3	1.4	1.1	
いたち川	D	"	鷹匠橋	9.6	9.7	6.3	6.2	8.9	9.5	8.5	6.6	6.8	7.9	7.5	5.3	4.7	4.5	4.5	4.3	4.0	2.5	2.7	2.7	
	D	いたち川	いたち川橋	7.5	10	6.0	4.9	7.1	6.9	5.2	4.5	3.9	4.2	3.3	3.5	3.4	2.8	2.5	2.8	2.3	3.9	1.6	1.5	
平均（21地点）				-	-	-	7.0	7.5	7.7	7.7	6.3	5.1	5.2	4.5	4.1	4.6	3.5	3.4	3.4	3.3	3.0	2.7	2.3	

表1 - 1 0 河川BOD7 5%値経年変化(公共用水域水質測定)

水域名	類型	河川名	測定地点名	H元	(mg / L)																			
					2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
鶴見川	D	鶴見川	千代橋	7.1	5.9	6.4	8.5	8.5	8.5	8.5	8.1	7.2	8.7	6.1	7.2	11	7.2	6.6	8.4	5.7	5.5	3.9		
	D	"	亀の子橋	9.2	9.1	10	9.4	11	20	15	9.7	11	10	11	11	8.3	9.4	8.2	7.6	5.9				
	E	"	大綱橋	8.3	9.0	11	10	12	18	11	9.6	11	9.6	10	8.0	9.2	8.0	5.8	8.2	7.2	5.6	5.0		
	E	"	末吉橋	6.8	7.9	6.6	5.6	5.5	5.6	5.3	5.7	3.5	3.0	2.9	4.2	3.4	2.2	2.6	2.5	2.4	2.1	2.6	2.1	
	E	"	臨港鶴見川橋	4.5	4.9	4.1	3.4	2.4	2.6	2.6	2.5	2.5	2.1	1.8	2.1	2.1	1.7	1.9	2.2	2.5	1.5	1.6	1.5	
入江川	(D)	恩田川	都橋	10	8.4	7.4	11	13	12	15	11	11	11	10	16	13	14	11	12	11	10			
	(D)	大熊川	大竹橋	-	-	-	6.7	6.5	8.1	4.3	2.6	4.0	3.6	3.6	3.4	5.0	2.6	2.4	2.1	2.1	1.4	1.1		
	(D)	鳥山川	又口橋	-	-	-	9.8	10	20	13	7.2	7.3	5.4	5.0	5.7	2.6	2.8	2.4	2.3	1.4	1.5	1.2		
	(E)	早淵川	峰大橋	6.8	11	6.5	5.7	5.6	5.2	6.1	3.8	3.4	3.1	2.4	2.0	1.9	2.5	2.2	2.0	1.7	1.5	1.1		
	(E)	矢上川	矢上川橋	22	18	12	13	12	14	8.2	6.6	4.6	4.1	3.8	4.1	2.1	3.0	3.6	2.4	3.4	2.6	2.2		
帷子川	B*	入江川	入江橋	7.2	5.9	4.4	3.0	2.1	3.2	2.5	2.3	1.8	1.7	2.1	2.6	1.5	2.5	2.2	1.4	1.6	1.5	1.3		
	B*	帷子川	水道橋	7.4	6.3	5.1	5.0	4.6	3.3	4.7	3.2	2.2	1.9	1.8	1.8	1.1	1.2	1.4	1.6	1.1	1.0	0.8		
	B*	大岡川	清水橋	3.6	3.6	3.7	3.8	4.1	2.8	3.5	2.3	1.9	2.4	2.6	2.2	2.5	2.0	2.1	2.4	1.5	1.6	1.5		
	B*	宮川	瀬戸橋	5.2	6.0	4.0	3.6	2.7	2.8	2.0	2.5	2.0	2.2	2.2	1.9	2.1	1.5	2.3	1.7	1.5	1.3	1.2	1.1	
	B*	侍従川	平湯橋	4.1	4.1	5.1	3.8	2.3	2.4	1.9	3.0	1.8	2.6	1.6	1.6	2.3	1.8	2.4	1.6	1.9	2.6	1.0	1.3	
境川	D	境川	鶴間橋	37	27	16	14	15	11	12	10	8.8	8.1	5.2	5.6	5.0	2.6	1.7	2.4	2.6	2.9	1.6		
	D	"	新道大橋	26	19	12	14	15	12	9.1	9.1	10	12	5.7	6.6	8.1	3.4	4.9	4.3	4.3	7.2	4.7		
	D	"	高鎌橋	13	12	10	9.4	12	15	12	9.9	8.6	8.2	4.6	6.7	6.6	4.0	4.2	5.7	5.7	3.4	5.8	2.7	
	D	柏尾川	吉倉橋	8.7	8.8	6.9	6.1	6.5	7.7	5.6	5.1	3.9	3.9	2.7	3.1	3.7	2.6	4.2	5.7	2.0	1.5	1.2	1.0	
	D	"	鷹匠橋	12	11	7.8	7.3	7.1	11	7.6	6.7	7.7	11	8.1	5.6	4.9	4.9	5.0	4.5	2.8	3.5	3.4		
D	いたち川	いたち川橋	8.9	12	8.3	4.9	7.8	7.4	7.8	4.9	4.3	5.2	3.6	4.3	4.2	3.0	3.2	2.8	2.7	2.1	2.1	1.6		

注：環境基準B = 3mg/L以下(平成12年度から適用) 環境基準D = 8mg/L以下 環境基準E = 10mg/L以下

類型がB*と示してある地点の類型は従来Eであったが、平成12年度からBに変更された。

：環境基準不適合

表1 - 11 東京湾COD年平均値経年変化(公共用水域水質測定)

水域名	類型	測定地点名	H元	(mg / L)																	
				2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
東京湾 6	C	鶴見川河口先	3.3	3.4	3.1	3.3	3.8	3.9	4.1	3.9	4.0	3.9	3.7	3.9	4.2	4.3	3.7	4.0	4.5	4.1	3.7
		横浜港内	2.7	2.9	2.9	2.4	3.2	3.6	3.4	3.3	3.5	3.6	3.3	3.2	3.7	3.6	3.0	3.6	3.9	3.3	3.4
東京湾 7	C	磯子沖	2.5	2.8	2.2	2.5	3.0	2.9	2.8	3.1	2.8	2.9	2.5	2.9	3.1	2.5	2.8	3.2	2.8	2.9	
東京湾 10	B	平潟湾内	3.5	3.7	3.0	2.8	3.7	3.2	3.4	3.1	3.5	3.2	3.2	3.3	3.7	3.5	2.8	3.4	3.7	3.4	3.3
東京湾 12	B	本牧沖	2.2	2.3	1.8	2.9	3.0	2.8	2.8	2.5	2.9	2.4	2.6	2.6	3.1	2.8	2.4	2.8	2.9	2.6	2.7
		富岡沖	2.3	2.6	2.0	2.3	3.0	2.9	2.6	2.6	2.8	2.7	2.6	2.6	2.8	2.9	2.5	2.8	3.1	2.5	2.7
		平潟湾沖	2.2	2.5	2.1	2.2	2.8	2.7	2.7	2.7	2.5	2.8	2.4	2.3	2.7	2.7	2.2	2.7	2.7	2.4	2.6
平均			2.7	2.9	2.6	2.5	2.6	3.2	3.1	3.0	3.2	3.0	2.9	2.9	3.3	3.3	2.7	3.2	3.4	3.0	3.0

表1 - 12 東京湾COD 75%値経年変化(公共用水域水質測定)

水域名	類型	測定地点名	H元	(mg / L)																		
				2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
東京湾 6	C	鶴見川河口先	4.1	3.8	3.7	3.2	3.9	4.5	4.3	5.3	4.3	4.6	4.7	4.1	4.5	4.8	5.0	4.2	5.5	4.4	3.6	
		横浜港内	3.0	3.2	3.5	3.0	2.8	3.5	4.3	4.3	4.7	4.2	3.8	3.4	3.4	4.6	4.1	3.3	4.0	5.2	3.9	3.4
東京湾 7	C	磯子沖	2.6	3.3	2.7	2.4	3.1	3.2	3.5	3.3	3.0	3.3	3.4	3.4	3.1	3.3	3.7	2.9	4.2	3.1	3.2	
東京湾 10	B	平潟湾内	3.6	4.6	3.8	3.1	3.4	4.4	3.7	4.0	3.6	4.0	3.8	3.4	4.0	4.2	4.1	3.3	4.4	4.2	4.0	3.8
東京湾 12	B	本牧沖	2.3	2.5	2.1	2.0	2.6	3.6	3.4	3.2	2.5	3.9	3.0	2.4	2.7	3.6	3.1	2.7	3.7	3.4	3.2	3.2
		富岡沖	2.4	3.2	2.4	2.4	4.4	3.6	3.0	3.0	3.4	3.2	3.2	3.1	2.8	3.3	3.4	2.8	3.3	3.8	2.9	2.9
		平潟湾沖	2.3	3.2	2.5	2.2	3.1	3.2	3.1	3.1	3.2	2.8	2.6	3.1	2.5	2.7	3.2	2.8	3.3	3.2	2.6	2.8

注：環境基準 B = 3mg/L 以下 環境基準 C = 8mg/L 以下

：環境基準不適合

表1 - 13 中小河川BOD年平均値経年変化(中小河川水質調査)

水域名	類型	測定地点名	H元	(mg / L)																			
				2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
鶴見川	(D)	団地入口橋	-	-	21	20	22	17	-	5.4	5.3	6.0	5.7	3.5	2.5	3.5	1.1	2.7	1.4	1.7	1.8		
	(D)	耕地橋	-	-	-	-	-	-	-	-	2.2	1.9	1.5	1.9	1.6	2.2	1.6	2.2	2.0	1.3	1.9		
	(D)	在田管理橋	-	-	-	-	-	-	-	-	3.0	2.3	1.9	2.2	8.9	5.3	2.6	1.7	1.5	1.3	1.3		
	(D)	宮前橋	-	-	4.6	4.2	3.3	2.3	4.7	5.1	2.6	2.1	2.5	1.8	3.3	3.3	3.3	2.9	1.7	1.3	1.4		
	(D)	鴨志田管理橋	-	-	-	-	-	-	-	-	3.5	2.6	2.9	2.2	2.6	2.5	2.2	2.6	2.6	2.4	1.6		
	(D)	神前橋	-	-	6.4	3.6	3.1	3.9	2.2	1.8	2.1	1.5	1.2	1.0	1.5	2.0	1.0	1.6	0.8	1.0	1.0		
	(D)	竹の下橋	-	-	-	-	-	-	-	-	2.3	1.2	1.0	1.7	1.6	1.7	1.0	1.2	1.5	3.0	1.0		
	(D)	鴨居橋	34	23	30	18	11	18	10	6.4	5.3	3.8	3.7	3.2	2.8	2.4	2.0	2.2	6.0	2.7	4.7		
	(D)	屋敷橋	8.8	8.8	4.4	3.1	2.8	2.8	2.3	1.0	2.0	1.8	1.3	1.2	1.5	1.4	1.4	1.1	0.9	0.9	1.0		
	(D)	新治橋	2.6	4.7	3.7	1.7	0.7	2.3	2.3	1.3	1.6	1.7	1.0	1.0	1.0	1.2	-	-	-	-	-		
(D)	三台橋	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1.3	1.2	3.6	1.3	2.2		
(D)	真橋	14	4.3	5.9	5.8	5.7	2.6	5.9	3.8	6.2	2.9	4.2	4.9	2.6	3.4	2.5	2.3	2.8	2.2	4.3	2.6		
帷子川	B*	中井橋	-	-	-	-	-	-	-	-	7.8	5.2	5.0	4.5	4.3	2.6	4.6	3.8	2.4	11	1.7		
	B*	耕地橋	-	-	-	-	-	-	-	-	4.0	3.2	2.0	1.8	1.7	2.1	3.5	2.7	3.4	3.2	1.7		
	B*	八幡橋	-	-	6.1	7.5	3.8	6.5	4.0	1.9	2.5	3.2	2.0	1.9	3.2	2.7	3.3	2.2	2.4	1.1	1.7		
	B*	浜串橋	38	15	8.9	8.6	11	7.0	9.9	6.2	5.1	5.4	6.8	3.4	3.2	2.1	2.3	3.6	2.4	1.5	1.4	1.5	
	B*	四季美橋	32	21	11	23	14	18	11	9.5	5.0	5.8	4.9	3.5	4.1	2.7	2.6	2.5	1.7	1.8	1.7	1.5	
	B*	分水路際	-	-	-	-	-	-	-	-	8.3	6.1	4.6	5.9	4.1	4.0	4.7	3.4	3.4	3.3	2.4	1.3	
	B*	原下橋	-	-	-	-	-	-	-	-	4.1	2.3	2.1	2.0	1.8	1.4	1.8	1.1	0.7	1.1	1.1		
	B*	新川島橋	-	-	-	-	-	-	-	-	3.4	4.2	3.2	3.1	3.1	4.3	3.8	4.2	3.3	2.8	3.2		
	B*	港南橋	-	-	-	-	-	-	-	-	2.4	2.1	2.6	8.5	1.6	1.5	1.3	4.0	1.0	1.2	1.1		
	D	中川橋	-	-	-	-	-	-	-	-	4.4	4.2	4.9	2.4	2.3	3.6	3.9	2.8	1.0	2.0	1.5		
境川	D	董橋	6.7	4.9	5.9	6.5	4.5	6.0	7.8	4.8	3.0	2.7	3.6	2.3	1.8	2.0	1.9	2.7	3.3	1.3	1.1		
	D	銅屋橋	9.4	11	12	17	11	7.7	6.6	5.2	2.4	3.3	3.7	1.6	1.9	3.0	1.5	3.1	1.4	1.0	1.0		
	D	宇田川橋	13	9.4	8.5	9.2	6.5	7.2	7.9	9.7	3.5	3.3	3.7	3.5	2.0	2.2	1.8	1.6	1.0	1.8	1.5		
	D	トーヨー橋	12	16	5.7	3.7	4.7	5.6	4.3	5.1	3.5	3.0	2.4	4.2	5.1	4.2	1.7	4.2	1.4	1.0	1.1		
	D	渡戸橋	-	-	-	3.5	5.6	5.1	4.8	3.0	3.0	6.3	3.7	2.8	3.3	2.2	2.3	1.7	10	1.4	1.5	1.6	
	D	元舞橋	12	9.9	9.6	8.8	11	6.4	3.5	4.6	2.6	2.1	1.4	2.0	1.2	1.2	1.2	1.5	0.8	1.6	0.7		

注：類型がB*と示してある地点の類型は従来Eであったが、平成12年度からBに変更された。

鶴見川水系についての類型は鶴見川上流の基準値と比較(準用)している。

表1 - 1 4 東京湾全窒素年平均値経年変化 (表層) (公共用水域水質測定)

水域名	類型	測定地点	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
東京湾 (口)		鶴見川河口先	2.9	3.5	3.2	2.8	3.5	2.4	2.9	3.7	2.6	3.0	2.7	2.7	2.4	2.3	2.6	2.5	2.1	2.6	2.6	2.2	
		横浜港内	1.6	1.6	1.9	1.5	1.6	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.5	1.3	1.2	1.2	1.2	1.1	1.2	1.2	1.3	1.0	1.2
		磯子沖	1.2	1.1	1.1	1.0	0.99	1.1	1.1	0.94	0.88	0.95	0.98	1.0	1.0	0.78	0.78	0.92	0.77	0.76	0.82	0.72	0.82
		本牧沖	1.1	1.0	1.0	0.96	1.1	1.0	1.0	0.96	1.0	0.97	1.1	0.99	1.0	0.96	0.98	1.0	0.84	0.86	0.89	0.85	0.91
		富岡沖	1.0	1.0	0.97	0.98	0.85	0.88	0.85	0.88	0.86	0.77	0.82	0.95	0.86	0.89	0.80	0.82	0.72	0.70	0.76	0.64	0.72
東京湾 (二)		平島湾内	1.8	1.6	1.6	1.4	1.1	1.1	0.87	1.0	0.92	1.0	0.93	0.90	0.87	0.85	0.83	0.71	0.76	0.75	0.77	0.77	0.78
		平島湾沖	1.0	0.99	1.1	1.1	0.89	0.89	0.89	0.81	0.83	0.83	0.96	0.86	0.87	0.75	0.79	0.85	0.67	0.72	0.76	0.76	0.76
平		平均	1.5	1.5	1.6	1.4	1.4	1.3	1.2	1.4	1.2	1.4	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	1.0	1.0	1.1	1.1	1.1	1.1

注：環境基準 類型=1mg/L以下 環境基準 類型=0.6mg/L以下
環境基準の適否は、類型指定された平成7年度から評価を行っている。

環境基準不適合

表1 - 1 5 東京湾全磷年平均値経年変化 (表層) (公共用水域水質測定)

水域名	類型	測定地点	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
東京湾 (口)		鶴見川河口先	0.17	0.24	0.25	0.19	0.24	0.19	0.22	0.28	0.20	0.23	0.21	0.21	0.20	0.19	0.19	0.20	0.16	0.19	0.20	0.15	
		横浜港内	0.11	0.12	0.19	0.13	0.11	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12	0.12	0.12	0.097	0.095	0.11	0.10	0.079	0.088	0.12	0.080	0.10
		磯子沖	0.075	0.081	0.099	0.077	0.073	0.10	0.073	0.075	0.075	0.077	0.073	0.075	0.081	0.058	0.058	0.066	0.059	0.055	0.068	0.063	0.064
		本牧沖	0.071	0.069	0.077	0.076	0.078	0.089	0.078	0.075	0.083	0.080	0.078	0.080	0.078	0.068	0.071	0.075	0.063	0.068	0.070	0.065	0.078
		富岡沖	0.066	0.072	0.08	0.083	0.063	0.087	0.063	0.070	0.064	0.069	0.065	0.063	0.066	0.060	0.063	0.054	0.054	0.054	0.063	0.050	0.055
東京湾 (二)		平島湾内	0.16	0.16	0.19	0.13	0.10	0.13	0.085	0.093	0.082	0.084	0.079	0.084	0.080	0.075	0.070	0.061	0.070	0.078	0.066	0.066	0.067
		平島湾沖	0.068	0.072	0.099	0.096	0.070	0.091	0.091	0.068	0.074	0.073	0.072	0.068	0.073	0.061	0.060	0.064	0.053	0.059	0.066	0.074	0.069
平		平均	0.10	0.12	0.14	0.11	0.10	0.12	0.10	0.11	0.10	0.10	0.099	0.098	0.089	0.090	0.089	0.081	0.079	0.094	0.084	0.084	0.083

注：環境基準 類型=0.09mg/L以下 環境基準 類型=0.05mg/L以下
環境基準の適否は、類型指定された平成7年度から評価を行っている。

環境基準不適合

(3) 水質汚濁に関する環境基準

表 1 - 1 6 人の健康の保護に関する環境基準

(mg/L 以下)			
項 目	基 準 値	項 目	基 準 値
カドミウム	0.01	1,1,1-トリクロロエタン	1
全シアン	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006
鉛	0.01	トリクロロエチレン	0.03
六価クロム	0.05	テトラクロロエチレン	0.01
砒素	0.01	1,3-ジクロロプロペン	0.002
総水銀	0.0005	チウラム	0.006
アルキル水銀	検出されないこと	シマジン	0.003
P C B	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02
ジクロロメタン	0.02	ベンゼン	0.01
四塩化炭素	0.002	セレン	0.01
1,2-ジクロロエタン	0.004	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10
1,1-ジクロロエチレン	0.02	ふっ素	0.8
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	ほう素	1

直ちに達成され、維持されるように努めるものとする。
 基準値は年間平均値とする。
 ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

表 1 - 1 7 生活環境の保全に関する環境基準

【河川】

類型	利用目的の適応性	水素イオン濃度指数 (pH)	生物化学的酸素要求量 (B O D)	浮遊物質量 (S S)	溶存酸素量 (D O)	大腸菌群数
B	水道 3 級 水産 2 級 及び C 以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	5,000 MPN/100mL 以下
C	水産 3 級 工業用水 1 級 及び D 以下の欄に 掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	-
D	工業用水 2 級 農業用水 及び E の欄に 掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	-
E	工業用水 3 級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊 が認められないこと	2mg/L 以上	-

- 1 基準値は、日間平均値とする（湖沼、海域もこれに準ずる。）。
- 2 大腸菌群数に係る基準値については、当分の間適用しない。（平成 1 2 年 1 0 月 3 1 日神奈川県告示第 7 0 2 号）

水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3 級の水産生物用
 水産 3 級：コイ、フナ等、 - 中腐水性水域の水産生物用
 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの
 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩道を含む。）において不快感を生じない限度

【海域】

ア

類型	利用目的の適応性	水素イオン濃度指数 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n - ヘキサン抽出物質 (油分等)
B	水産2級工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3 mg/L以下	5 mg/L以上	-	検出されないこと
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8 mg/L以下	2 mg/L以上	-	-

イ

類型	利用目的の適応性	全窒素	全磷
	水産2種及び の欄に掲げるもの(水産3種を除く)	0.6mg/L以下	0.05mg/L以下
	水産3種、工業用水、生物生息環境保全	1mg/L以下	0.09mg/L以下

基準値は、表層の年間平均値とする。

水域類型の指定は、海洋植物プランクトンの著しい増殖を生ずるおそれがある海域について行うものとする。

水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される。

水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される。

生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度。

2 地下水質状況

(1) 地下水質測定等内容

表 2 - 1 地下水質測定等内容

【メッシュ調査・定点調査】

測定内容	メッシュ調査	定点調査
測定期間	平成20年10月～11月	
測定地点	103地点	8地点
測定項目	環境基準項目等30項目 1 34地点 環境基準項目等16項目 2 69地点	環境基準項目等30項目 1
測定回数	年1回	
測定方法	市内を1kmメッシュに分割し、メッシュ内に存在する井戸の地下水を採取する。4年間で市内全体の調査を行う。	市が所有する井戸8地点の地下水を採水する。長期的な観点から経年変化を調査する。

- 1 環境基準項目(健康項目と同じ26項目)のうち、アルキル水銀を除いた25項目と電気伝導率、pH、水温など5項目の30項目
アルキル水銀については総水銀が検出された場合のみ調査
- 2 環境基準項目(健康項目と同じ26項目)のうち、有機塩素系化合物等の11項目と電気伝導率、pH、水温 など5項目の16項目

【定期モニタリング調査・汚染井戸周辺地区調査】

測定内容	定期モニタリング調査	汚染井戸周辺地区調査
測定期間	平成20年10月	平成21年3月
測定地点	15地域の17地点	3地域の9地点
測定項目	汚染関連物質	
測定回数	年1回	
測定方法	汚染が確認された測定地点において、継続的な監視のため定期的に調査する。	メッシュ調査で新たに発見された汚染関連物質について、その汚染範囲を確認するために調査する。

【汚染井戸追跡調査】

測定内容	汚染井戸追跡調査
測定期間	平成20年8月～10月
測定地点	17地域の61地点
測定項目	汚染関連物質
測定回数	年1回
測定方法	過去に行った市の独自調査や事業者からの報告により汚染が確認された測定地点で原因が特定できなかった汚染井戸において、継続的な監視のため定期的に調査する。

【汚染源究明調査】

測定内容	汚染源究明調査
測定期間	平成20年7月～平成21年3月
調査地域	1地域(戸塚区東俣野町)
測定項目	汚染関連物質
測定回数	-
測定方法	汚染が判明している地域において、土壌・地下水汚染に係る調査・対策指針運用基準(環境庁水質保全局編)に準拠して、汚染源及び汚染原因者を特定するための調査を実施し、横浜市生活環境の保全等に関する条例に基づき浄化指導を行う。

(2) 地下水質測定結果

表 2 - 2 平成 20 年度 地下水質測定結果

調査項目	メッシュ調査			定点調査			定期モニタリング調査			汚染井戸 周辺地区調査			汚染井戸 追跡調査			基準値 (mg/L)	
	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数	調査検体数	検出検体数	環境基準超過検体数		
カドミウム	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01 以下	
全シアン	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	
鉛	34	2	1	8	0	0	2	0	0	6	0	0	-	-	-	0.01 以下	
六価クロム	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.05 以下	
砒素	34	0	0	8	0	0	1	1	0	-	-	-	-	-	-	0.01 以下	
総水銀	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0005 以下	
PCB	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	検出されないこと	
ジクロロメタン	103	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02 以下	
四塩化炭素	103	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.002 以下	
1,2-ジクロロエタン	103	0	0	8	0	0	-	-	-	2	0	0	-	-	-	0.004 以下	
1,1-ジクロロエチレン	103	0	0	8	0	0	6	0	0	2	0	0	61	9	1	0.02 以下	
シス-1,2-ジクロロエチレン	103	0	0	8	0	0	6	1	0	2	1	0	61	17	7	0.04 以下	
1,1,1-トリクロロエタン	103	0	0	8	0	0	6	0	0	-	-	-	61	5	0	1 以下	
1,1,2-トリクロロエタン	103	1	0	8	0	0	-	-	-	2	2	2	-	-	-	0.006 以下	
トリクロロエチレン	103	0	0	8	0	0	6	2	0	2	2	1	61	34	13	0.03 以下	
テトラクロロエチレン	103	0	0	8	0	0	6	0	0	-	-	-	61	47	21	0.01 以下	
1,3-ジクロロプロペン	103	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.002 以下	
チウラム	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.006 以下	
シマジン	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.003 以下	
チオベンカルブ	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02 以下	
ベンゼン	103	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01 以下	
セレン	34	0	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01 以下	
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	34	29	1	8	2	0	8	8	6	3	3	1	-	-	-	10 以下	
ふっ素	34	8	0	8	4	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.8 以下	
ほう素	34	18	0	8	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 以下	
市独自項目	クロロホルム	103	5	0	8	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0.06 以下	
一般項目	pH	103	-	0	8	-	0	17	-	0	9	-	0	61	-	0	5.8~8.6

注：検出検体数は基準超過検体数を含む。

各項目の基準値

環境基準項目：環境基準(平成 9 年 3 月 13 日環境庁告示第 10 号 平成 11 年 2 月 22 日改正)

pH：水道法第 4 条に基づく水質基準値

クロロホルム：「水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件及び地下水の水質汚濁に係る環境基準についての一部を改正する件の施行等について(平成 11 年 2 月 21 日環境庁水質保全局長通知)」に定める指針値(クロロホルムは要監視項目)

表 2 - 3 平成 20 年度 地下水環境基準超過項目

調査の種類	測定地点	環境基準超過項目	測定結果	基準値
メッシュ調査	緑区中山町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	12	10 以下
	戸塚区矢部町	鉛	0.035	0.01 以下
定期モニタリング調査	西区久保町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	11	10 以下
	南区六ッ川三丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	100	10 以下
	緑区鴨居四丁目	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	15	10 以下
	青葉区市ヶ尾町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	17	10 以下
	泉区岡津町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	25	10 以下
	泉区下飯田町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	17	10 以下
汚染井戸 周辺地区調査	緑区中山町	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	12	10 以下
	戸塚区矢部町	1,1,2-トリクロロエタン	0.030	0.006 以下
	戸塚区矢部町	1,1,2-トリクロロエタン トリクロロエチレン	0.015 0.031	0.006 以下 0.03 以下
汚染井戸 追跡調査	鶴見区北寺尾一丁目	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.11	0.04 以下
		トリクロロエチレン	0.048	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.21	0.01 以下
	鶴見区北寺尾一丁目	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.21	0.04 以下
		トリクロロエチレン	0.093	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.27	0.01 以下
	神奈川区羽沢町	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.081	0.04 以下
		トリクロロエチレン	0.078	0.03 以下
	神奈川区羽沢町	テトラクロロエチレン	0.031	0.01 以下
	港南区日野町五丁目	トリクロロエチレン	0.10	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.28	0.01 以下
	保土ヶ谷区西谷町	テトラクロロエチレン	0.014	0.01 以下
	保土ヶ谷区西谷町	テトラクロロエチレン	0.053	0.01 以下
	港北区新羽町	トリクロロエチレン	0.064	0.03 以下
	緑区長津田五丁目	シス-1,2-ジクロロエチレン	1.1	0.04 以下
	都筑区池辺町	テトラクロロエチレン	0.036	0.01 以下
	都筑区池辺町	テトラクロロエチレン	0.032	0.01 以下
	都筑区池辺町	テトラクロロエチレン	0.021	0.01 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.099	0.03 以下
	戸塚区東俣野町	テトラクロロエチレン	0.012	0.01 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.033	0.03 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.031	0.03 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.10	0.03 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.040	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.013	0.01 以下
	戸塚区東俣野町	トリクロロエチレン	0.045	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.020	0.01 以下
	泉区中田北	テトラクロロエチレン	0.086	0.01 以下
	泉区中田北	テトラクロロエチレン	0.061	0.01 以下
	泉区中田北	テトラクロロエチレン	0.025	0.01 以下
	泉区中田町	トリクロロエチレン	1.1	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	10	0.01 以下
		シス-1,2-ジクロロエチレン	2.2	0.04 以下
	泉区中田町	トリクロロエチレン	0.045	0.03 以下
		テトラクロロエチレン	0.020	0.01 以下
		1,1-ジクロロエチレン	0.021	0.02 以下
シス-1,2-ジクロロエチレン		3.4	0.04 以下	
泉区中田町	テトラクロロエチレン	0.038	0.01 以下	
	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.99	0.04 以下	
泉区和泉町	テトラクロロエチレン	0.028	0.01 以下	
瀬谷区相沢七丁目	テトラクロロエチレン	0.019	0.01 以下	
瀬谷区相沢七丁目	テトラクロロエチレン	0.033	0.01 以下	

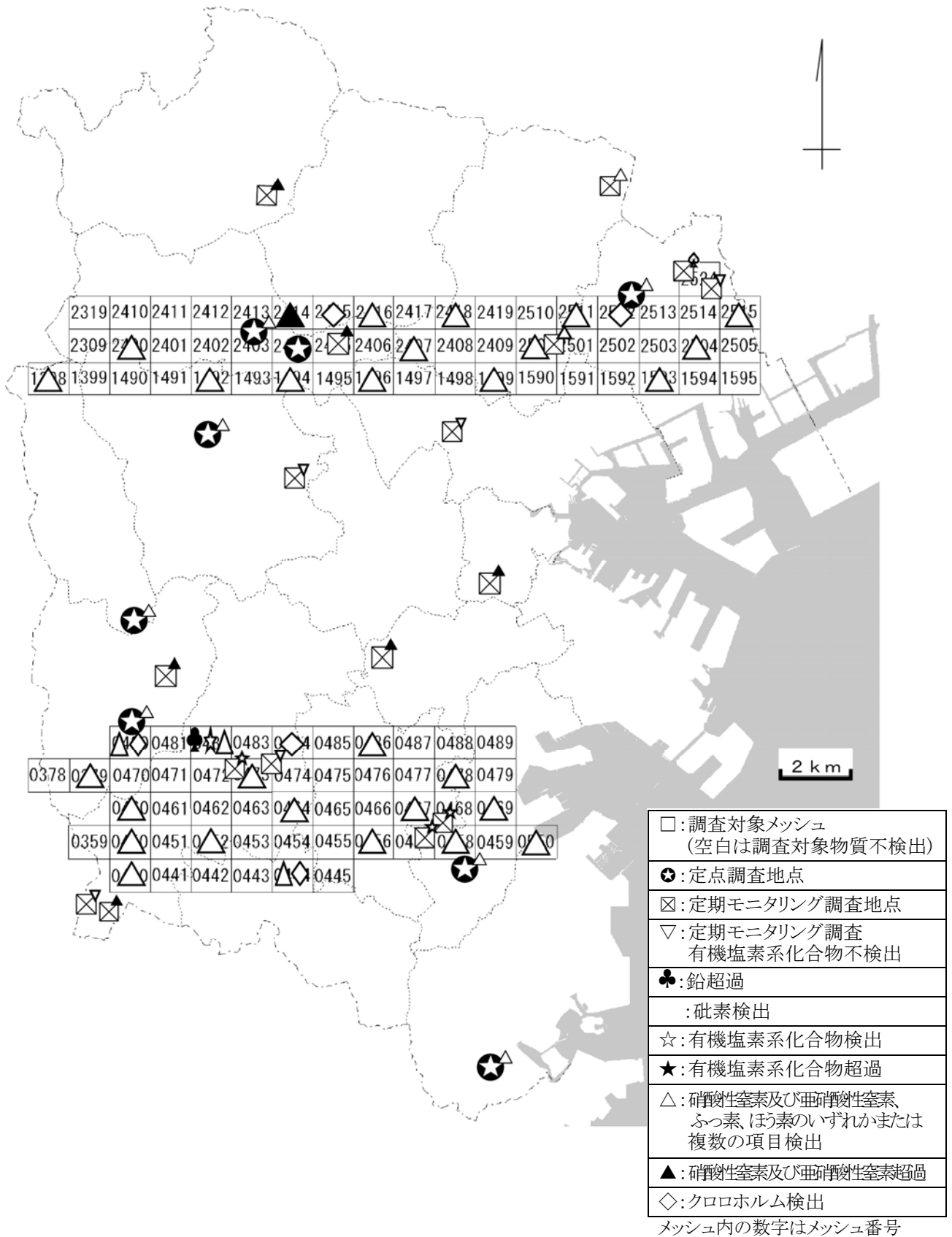


図2 平成20年度地下水測定地点及び測定結果

3 地盤沈下状況

表3 - 1 平成20年度 水準測量結果

(観測基準日：平成21年1月1日)

種別 區別	観測 点数	成果 点数	沈下 点数	沈下内訳 (単位：mm)					年間最大変動量		
				10 未満	10 以上 20 未満	20 以上 30 未満	30 以上 40 未満	40 以上	沈下量 (mm)	町 名	点 番号
鶴見	35	35	17	17	-	-	-	-	-3.8	大黒町	23
神奈川	27	27	24	24	-	-	-	-	-5.4	白幡上町	144
西	9	9	9	9	-	-	-	-	-2.3	岡野一丁目	207
中	22	21	20	20	-	-	-	-	-5.4	海岸通一丁目	検潮所
南	11	11	11	11	-	-	-	-	-5.6	中里一丁目	715
港南	14	13	12	12	-	-	-	-	-3.2	上大岡西一丁目	10830
保土ヶ谷	14	14	13	13	-	-	-	-	-2.7	常盤台	001-033
旭	13	13	13	13	-	-	-	-	-3.6	善部町	A-23
磯子	21	21	20	20	-	-	-	-	-4.3	新中原町	石-3
金沢	32	32	31	31	-	-	-	-	-4.9	釜利谷東七丁目	515
港北	38	33	30	30	-	-	-	-	-8.1	小机町	991
緑	14	14	5	5	-	-	-	-	-5.2	白山一丁目	M-22
青葉	7	7	3	3	-	-	-	-	-4.8	荏田町	M-34
都筑	22	20	18	18	-	-	-	-	-8.7	佐江戸町	M-17
戸塚	24	23	23	23	-	-	-	-	-5.8	俣野町	T-34
栄	24	23	18	18	-	-	-	-	-6.6	金井町	T-37
泉	16	15	15	15	-	-	-	-	-4.9	上飯田町	T-28
瀬谷	13	12	12	12	-	-	-	-	-8.2	瀬谷六丁目	S-22
計	356	343	294	294	-	-	-	-	-	-	-

注：観測点のうち前年と比較できるものを成果点とした。

表3 - 2 沈下量別面積推移

年度	沈下面積 (単位：km ²)						調査 面積 (km ²)	年間最大 変動量 (mm)	年間最大沈下地点
	10mm 以上 20mm 未満	20mm 以上 30mm 未満	30mm 以上 40mm 未満	40mm 以上 50mm 未満	50mm 以上	合計			
11	2.63	-	-	-	-	2.63	190.34	-17.8	鶴見区馬場三丁目
12	0.79	-	-	-	-	0.79	190.34	-12.9	神奈川区大野町
13	0.56	0.06	-	-	-	0.62	190.34	-21.5	栄区桂町
14	4.80	-	-	-	-	4.80	190.34	-18.6	中区石川町一丁目
15	0.11	0.01	-	-	-	0.12	190.34	-22.7	中区扇町一丁目
16	1.18	0.23	0.21	0.13	-	1.75	190.34	-47.0	栄区金井町
17	2.74	0.36	-	-	-	3.10	171.90	-29.5	栄区金井町
18	2.23	-	-	-	-	2.23	171.90	-17.5	栄区金井町
19	1.59	0.03	-	-	-	1.62	171.90	-25.0	栄区金井町
20	-	-	-	-	-	0.00	171.90	-8.7	都筑区佐江戸町

資料 3

平成 2 0 年度交通騒音等の状況

1	道路交通騒音状況	1
2	新幹線鉄道騒音・振動状況	6
3	航空機騒音状況	10

横浜市環境創造局環境管理課

1 道路交通騒音状況

(1) 道路交通騒音調査及び道路交通騒音面的評価調査内容

表 1 - 1 道路交通騒音調査及び道路交通騒音面的評価調査内容

測定内容	道路交通騒音調査	道路交通騒音面的評価調査
測定期間等	平成20年9月～10月	平成20年11月～21年3月
測定地点	32地点(3路線) 1 国道1号(11地点) 2 国道16号(12地点) 3 環状2号線(9地点)	4路線 118.9km 1 国道1号(47.9km) 2 国道16号(33.7km) 3 環状2号線(24.3km) 4 東名高速道路(13.0km)
測定方法 (評価方法)	積分型騒音計により、平日の3日間 連続で測定する。	道路端から50mまでの範囲にある住居等が受ける騒音レベルを実測値等をもとに推計し、環境基準に適合する戸数の割合を評価する。 また、近接空間(2車線道路は道路端から15m、2車線を超える道路は道路端から20mの範囲をいう。)についても同様に評価する。

国道1号には横浜新道を含む

(2) 道路交通騒音調査及び道路交通騒音面の評価調査測定結果

表 1 - 2 平成 20 年度 道路交通騒音調査測定結果

地点 番号	道路名称	測定場所	用途地域	測定結果 (LAeq) dB(A)		備考
				昼間	夜間	
1	国道1号	鶴見区下末吉2丁目	準工業	67	65	A
2	国道1号	神奈川区三ツ沢中町	近隣商業	72	69	C
3	国道1号(横浜新道)	戸塚区品濃町	準住居	74	72	C
4	国道1号	戸塚区戸塚町	第一種住居	73	72	C
5	国道1号	戸塚区原宿3丁目	準住居	71	72	C
6	国道1号	神奈川区桐畑	商業	72	69	C
7	国道1号	西区高島2丁目	商業	74	72	C
8	国道1号	西区中央1丁目	商業	71	70	C
9	国道1号	保土ヶ谷区保土ヶ谷1丁目	近隣商業	69	69	B
10	国道1号	戸塚区平戸町	第二種住居	72	71	C
11	国道1号	戸塚区戸塚町	第二種住居	70	65	A
12	国道16号	金沢区泥亀2丁目	近隣商業	70	68	B
13	国道16号	金沢区富岡東5丁目	近隣商業	71	68	C
14	国道16号	磯子区森3丁目	近隣商業	71	69	C
15	国道16号	磯子区磯子3丁目	準住居	72	70	C
16	国道16号	磯子区滝頭3丁目	近隣商業	71	68	C
17	国道16号	中区曙町5丁目	商業	72	70	C
18	国道16号	西区桜木町5丁目	商業	73	72	C
19	国道16号	保土ヶ谷区峰岡町1丁目	近隣商業	69	66	B
20	国道16号	保土ヶ谷区東川島町	準住居	68	66	B
21	国道16号	保土ヶ谷区西谷町	近隣商業	71	70	C
22	国道16号	旭区都岡町	第二種住居	68	65	A
23	国道16号	旭区上川井町	準工業	76	76	C
24	環状2号線	港北区師岡町	準住居	71	68	C
25	環状2号線	港北区大豆戸町	近隣商業	68	66	B
26	環状2号線	神奈川区羽沢南4丁目	第一種住居	72	70	C
27	環状2号線	磯子区森2丁目	近隣商業	70	68	B
28	環状2号線	旭区市沢町	準住居	70	68	B
29	環状2号線	港南区下永谷5丁目	準住居	70	70	B
30	環状2号線	港南区上永谷5丁目	準住居	69	68	B
31	環状2号線	港南区野庭町	準住居	72	71	C
32	環状2号線	港南区日野2丁目	準住居	68	67	B

備考 A：昼夜間とも環境基準に適合の地点
C：昼夜間とも環境基準に不適合の地点

B：昼間又は夜間のいずれかが環境基準に適合の地点

表 1 - 3 騒音測定結果と環境基準値との比較

路線名及び測定地点数	昼夜とも適合	昼又は夜のいずれか適合	昼夜とも不適合
国道 1 号 (1 1 地点)	2	1	8
国道 1 6 号 (1 2 地点)	1	3	8
環状 2 号線 (9 地点)	0	6	3
計	3	10	19

国道 1 号には横浜新道を含む

表 1 - 4 平成 2 0 年度 道路交通騒音面の評価調査結果 (全体)

路 線 名	評 価 道路 長 (km)	住居等 戸 数	昼間夜間とも 環境基準適合		昼間 環境基準適合		夜間 環境基準適合	
			適合 戸数	適合率 (%)	適合 戸数	適合率 (%)	適合 戸数	適合率 (%)
1 国道 1 号	47.9	29,247	20,104	68.7	25,322	86.6	20,105	68.7
2 国道 1 6 号	33.7	23,371	17,988	77.0	22,038	94.3	17,988	77.0
3 環状 2 号線	24.3	15,922	11,780	74.0	14,389	90.4	11,780	74.0
4 東名高速道路	13.0	4,574	3,331	72.8	3,597	78.6	3,331	72.8
計	118.9	73,114	53,203	72.8	65,346	89.4	53,204	72.8

備考 (1) 国道 1 号には横浜新道含む

備考 (2) 環状 2 号線には屏風ヶ浦バイパス含む

表 1 - 5 平成 2 0 年度 道路交通騒音面の評価調査結果 (近接空間)

路 線 名	評 価 道路 長 (km)	住居等 戸 数	昼間夜間とも 環境基準適合		昼間 環境基準適合		夜間 環境基準適合	
			適合 戸数	適合率 (%)	適合 戸数	適合率 (%)	適合 戸数	適合率 (%)
1 国道 1 号	47.9	12,206	6,875	56.3	9,524	78.0	6,875	56.3
2 国道 1 6 号	33.7	10,103	6,416	63.5	8,973	88.8	6,416	63.5
3 環状 2 号線	24.3	6,156	4,013	65.2	5,881	95.5	4,013	65.2
4 東名高速道路	13.0	892	623	69.8	645	72.3	623	69.8
計	118.9	29,357	17,927	61.1	25,023	85.2	17,927	61.1

備考 (1) 国道 1 号には横浜新道含む

備考 (2) 環状 2 号線には屏風ヶ浦バイパス含む

(3) 道路交通騒音・振動に関する環境基準等

表 1 - 6 騒音に係る環境基準（道路に面する地域）

（評価は等価騒音レベル（ L_{Aeq} ）によるものとする）

地域の区分	昼間 (午前6時～午後10時)	夜間 (午後10時～午前6時)
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	60 dB以下	55 dB以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	65 dB以下	60 dB以下

この場合において、幹線交通を担う道路に近接する空間については、上表にかかわらず、特例として次表の基準値の欄に掲げるとおりとする。

昼間 (午前6時～午後10時)	夜間 (午後10時～午前6時)	「幹線交通を担う道路」: 高速自動車国道、自動車専用道路、 一般国道、都道府県道及び4車線以上の市町村道をいう。
70 デシベル以下	65 デシベル以下	

2 新幹線鉄道騒音・振動状況

(1) 新幹線鉄道騒音・振動調査内容

表 2 - 1 新幹線鉄道騒音・振動調査内容

測定期間	平成 20 年 10 月から 11 月
測定地点	騒音：8 箇所（軌道からの距離 12.5 m、25 m、50 m の計 24 地点） 振動：8 箇所（軌道からの距離 12.5 m、25 m、50 m の計 24 地点）
測定方法	騒音：原則として 20 本の列車を測定した。（上下線各 10 本以上） 振動：原則として 20 本の列車を測定した。（上下線各 10 本以上）

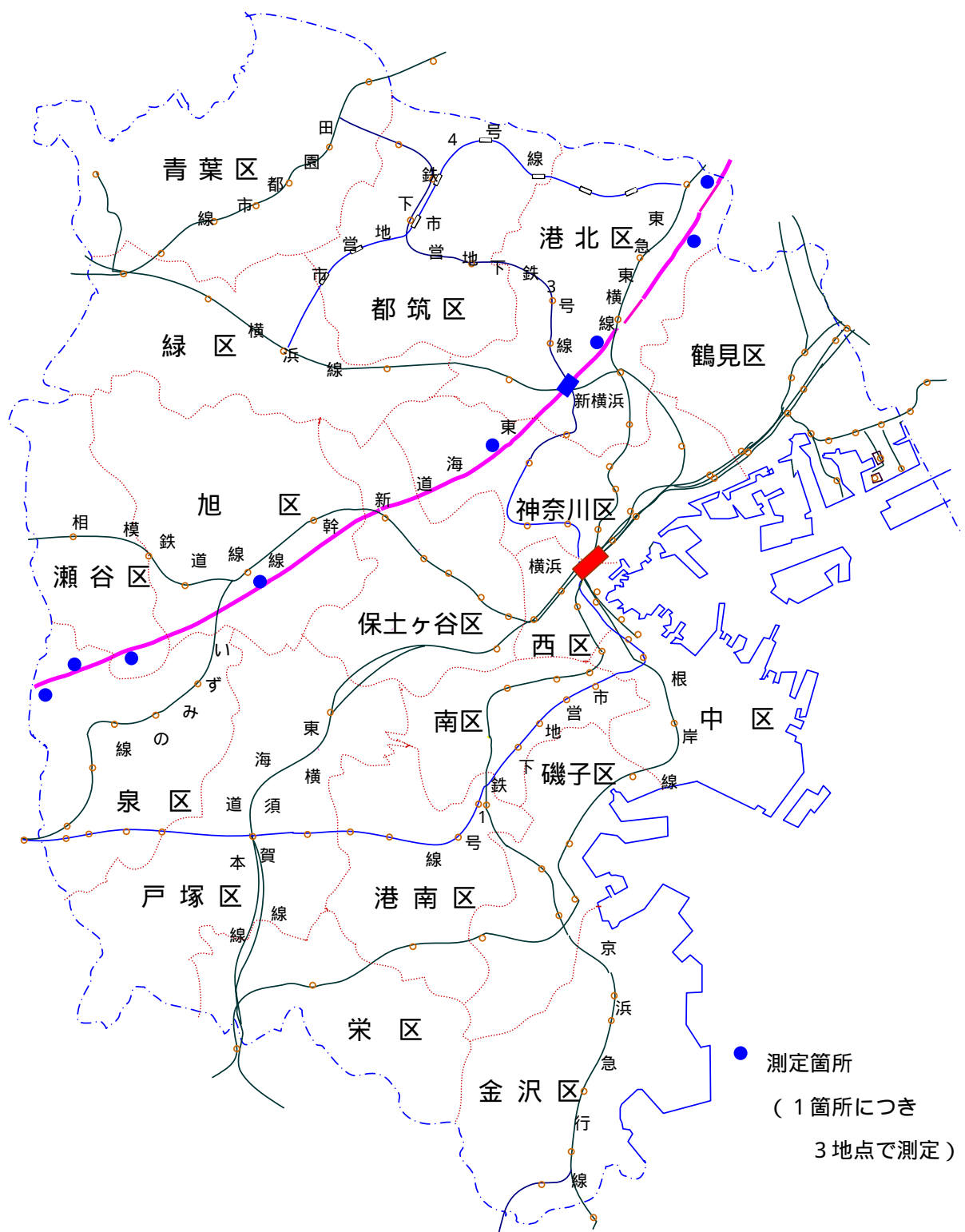


図2 新幹線鉄道騒音・振動調査地点

(2) 新幹線鉄道騒音・振動調査結果

表 2 - 2 平成 20 年度 新幹線鉄道騒音環境基準適合状況

軌道からの距離	住居系地域 (環境基準 70 dB)			商工業系地域 (環境基準 75 dB)		
	適合数	不適合数	適合率 (%)	適合数	不適合数	適合率 (%)
12.5m 地点	3	4	43	1	0	100
25.0m 地点	4	3	57	1	0	100
50.0m 地点	6	1	86	1	0	100
合計	13	8	62	3	0	100

表 2 - 3 新幹線鉄道騒音レベル経年変化 (距離別の 8 地点平均)

(dB)

軌道からの距離	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
12.5m 地点	77	75	76	76	76	77	75	74	74	73	73	74	74	73	75	74	73	74	74	72
25.0m 地点	75	73	74	73	73	74	72	72	71	70	71	70	70	70	71	71	70	71	71	69
50.0m 地点	70	68	68	68	68	69	67	67	67	65	65	66	65	64	65	65	65	65	66	64

表 2 - 4 平成 20 年度 新幹線鉄道振動指針値適合状況

軌道からの距離	適合数	不適合数	適合率 (%)
12.5m 地点	8	0	100
25.0m 地点	8	0	100
50.0m 地点	8	0	100
合計	24	0	100

表 2 - 5 新幹線鉄道振動レベル経年変化 (距離別の 8 地点平均)

(dB)

軌道からの距離	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
12.5m 地点	66	67	66	66	67	67	67	66	66	64	63	64	63	64	63	62	62	62	63	63
25.0m 地点	61	62	62	63	63	63	62	63	62	61	60	60	60	60	59	59	60	59	59	59
50.0m 地点	58	58	58	58	58	58	57	57	57	57	56	56	55	55	54	53	54	54	54	54

(3) 新幹線に関する環境基準等

表 2 - 6 新幹線鉄道騒音に関する環境基準

地域の類型	都市計画法による用途地域	基準値
I	第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域	70 dB以下
	第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域	
	第1種住居地域、第2種住居地域、準住居地域、無指定	
	近隣商業地域、商業地域、準工業地域、工業地域	75 dB以下

表 2 - 7 新幹線鉄道振動の指針値

- (1) 70 dBを超える地域について緊急に振動源及び障害防止対策等を講ずること。
- (2) 病院、学校その他特に静穏の保持を要する施設の存する地域については、特段の配慮をするとともに、可及的速やかに措置すること。

3 航空機騒音状況

(1) 航空機騒音調査内容

表3 - 1 航空機騒音調査内容

測定期間	平成20年4月～平成21年3月
測定地点	3地点（緑区長津田小学校、瀬谷区相沢小学校、泉区東中田小学校）
測定方法	24時間常時測定 測定項目は、70dB以上の騒音の発生日時とその実音、騒音のピークレベル及び継続時間等である。

(2) 航空機騒音調査結果

表3 - 2 航空機騒音レベル経年変化

(WECPNL)

測定地点	H元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
緑区長津田小学校	59	60	61	61	61	62	61	61	58	60	60	59	59	60	60	59	59	58	59	57
瀬谷区相沢小学校	59	59	61	60	61	61	61	60	61	61	60	59	59	59	61	61	60	60	60	57
泉区東中田小学校	59	59	61	59	58	59	58	58	58	57	57	58	63	61	59	58	58	57	58	57

(3) 航空機騒音に関する環境基準

表3 - 3 航空機騒音に関する環境基準

地域の類型	基準値（単位 WECPNL*）
	70以下
	75以下

注： をあてはめる地域は専ら住居の用に供される地域とし、 をあてはめる地域は 以外の地域であって通常の生活を保全する必要がある地域とする。

なお、各類型をあてはめる地域は、都道府県知事が指定するが、横浜市は地域指定されていない。

*WECPNL（加重等価平均感覚騒音レベル）は、人の生活時間帯を考慮して、昼間、夕方、夜間の時間帯ごとに航空機の飛行回数に補正係数を乗じて、影響が大きい夜間の騒音が昼間よりも大きく評価されるようにした指標である。